

株式会社 T&Dホールディングス

2009年3月期
決算のご説明

・表紙

目次

✓ T&Dホールディングス 決算ハイライト	3
✓ ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (EEV)	23
✓ 2009年3月期レビューと 2010年3月期グループ経営方針	33
✓ 参考資料	41
✓ 参考資料(EEV)	71

T&Dホールディングス 2009年3月期決算ハイライト

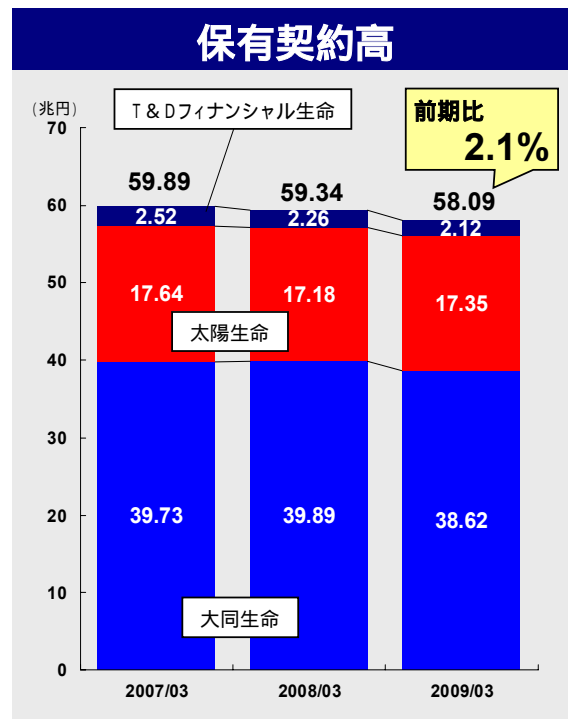
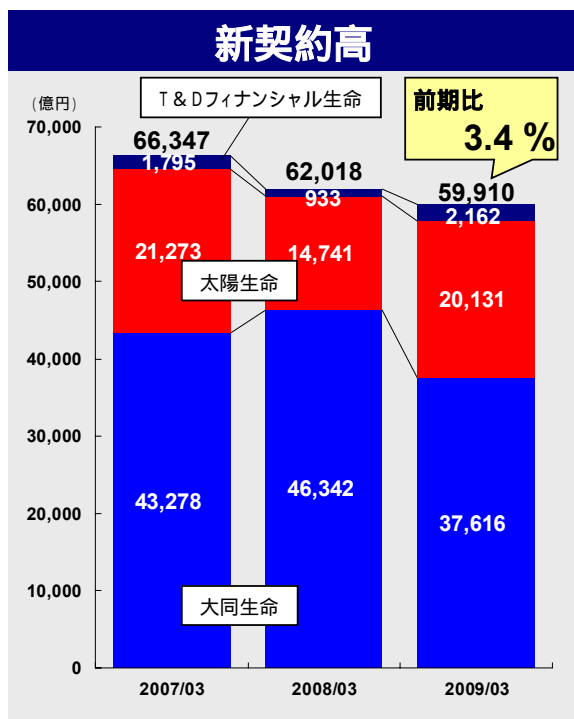
・2009年3月期決算ハイライト

決算のポイント

- 生保3社合計の新契約高は前期を下回り、解約失効高は増加。保有契約高は年度始から減少
- 金融市場の混乱により資産運用収支が悪化し、経常損失・当期純損失となる
- グループのEEVは8,665億円となり、前期末より7,551億円減少

- ・T&Dホールディングスの当期の決算のポイントを3点挙げます。
- ・1点目に、生保3社合計の契約業績について、新契約高は前期を下回り、解約失効高は増加しました。保有契約高は年度始から減少しました。
- ・2点目として、金融市場の混乱により資産運用収支が悪化し、経常損失・当期純損失となりました。
- ・3点目として、EEVは8,665億円となり、前期末から7,551億円減少しました。

契約業績



*個人保険・個人年金保険合計 ** 新契約高には、転換による純増加を含みませ

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

- ・当期のグループ生保3社合計の新契約高は5兆9,910億円となり、前期と比べて3.4%減少しました。
- ・また、保有契約高は5兆8千971億円となり、前期に比べ2.1%(1兆2,432億円)減少しました。
- ・次ページ以降、各社ごとの契約業績の詳細をご説明します。

契約業績: 大同生命

(億円)

	2009年 3月期	2008年 3月期	増減率	
新契約高*				
個人保険・個人年金合計	37,616	46,342	▲18.8%	中小企業の業績悪化による
うち個人定期保険	36,270	44,898	▲19.2%	
減少契約高**				
個人保険・個人年金合計	50,368	44,692	12.7%	中小企業の経営環境悪化により、解約返戻金の多い長期の定期保険を中心に解約が増加したことによる
うち個人定期保険	46,969	41,325	13.7%	
うち解約失効高	39,924	35,500	12.5%	
解約失効率***	10.01%	8.93%	1.08P	
うち個人定期保険	37,962	33,661	12.8%	
保有契約高				年度始より 12,752億円
個人保険・個人年金合計	386,218	398,971	▲3.2%	
うち個人定期保険	351,055	361,753	▲3.0%	年度始より 10,698億円
新契約年換算保険料*	597	719	▲17.0%	
保有契約年換算保険料	6,648	6,891	▲3.5%	

* 新契約高には、転換による純増加を含みます。
 ** 減少契約高 = 新契約高 - 前年度末からの保有契約高の増加分
 *** 解約失効率 = 解約失効高 / 年度始保有契約高

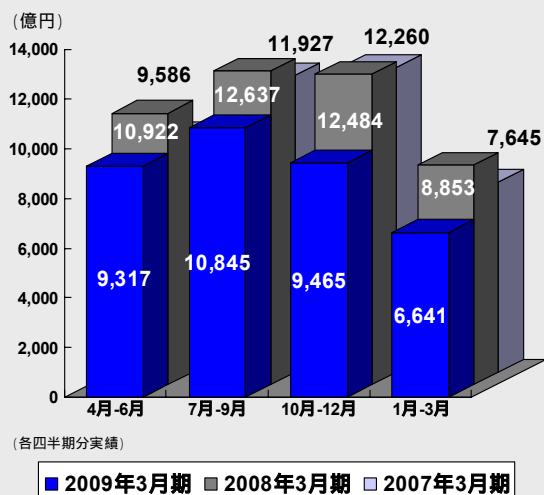
・大同生命の新契約高は3兆7,616億円となり、前期から18.8%減少しました。これは、前期のような料率改定などのプラス要因がなかったことや、下期以降の急速な景気悪化に伴い、主力マーケットである中小企業の業績が悪化したことなどによります。

・解約失効高は3兆9,924億円となり、前期より12.5%の増加となりました。解約失効率は10.01%となり、前期に比べ1.08ポイント上昇しました。これは、解約返戻金の多い長期の定期保険を中心に解約が増加したことによります。

・以上の結果、保有契約高は3兆6,218億円となり、年度始より1兆2,752億円減少しました。

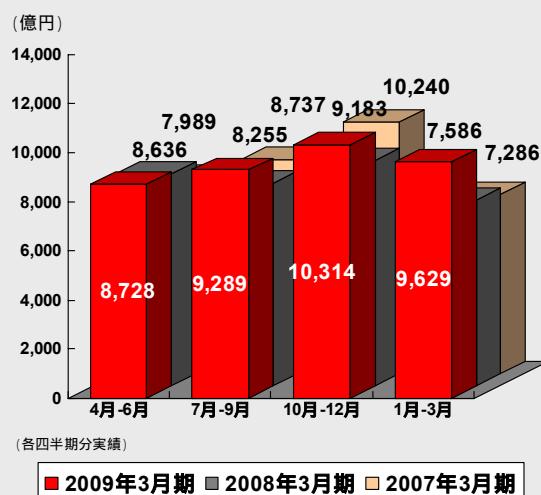
四半期別業績推移：大同生命 (個人定期保険)

新契約高*の推移



* 新契約高には、転換による純増加を含みます。

解約失効高の推移



・主力の個人定期保険について、四半期別の新契約高および解約失効高の推移をグラフに表しています。

契約業績: 太陽生命



(億円)

	2009年 3月期	2008年 3月期	増減率
新契約高*			
個人保険・個人年金合計	20,131	14,741	36.6%
うち保障性商品	18,599	13,104	41.9%
うち転換による純増加	6,438	2,609	146.7%
減少契約高**			
個人保険・個人年金合計	18,401	19,364	▲ 5.0%
うち解約失効高	12,455	13,486	▲ 7.6%
解約失効率***	7.25%	7.64%	▲ 0.39P
保有契約高			
個人保険・個人年金合計	173,552	171,822	1.0%
うち保障性商品	127,912	123,876	3.3%
新契約年換算保険料*	331	327	1.1%
うち第三分野	96	95	0.6%
保有契約年換算保険料	6,130	6,373	▲ 3.8%
うち第三分野	1,103	1,110	▲ 0.6%

・2008年10月に投入した新商品「組曲Best」の販売好調による
・転換純増が大幅に増加

継続率を高める施策を引き続き注力したことによる

・年度始より+1,730億円
・保障性商品の占率は73.7% (年度始より1.6ポイント増)

過去に販売した貯蓄性保険(ひまわり、旧けんこう)が満期を迎えたため

* 新契約高には、転換による純増加を含みます。
** 減少契約高 = 新契約高 - 各前年度末からの保有契約高の増加分
*** 解約失効率 = 解約失効高 / 年度始保有契約高

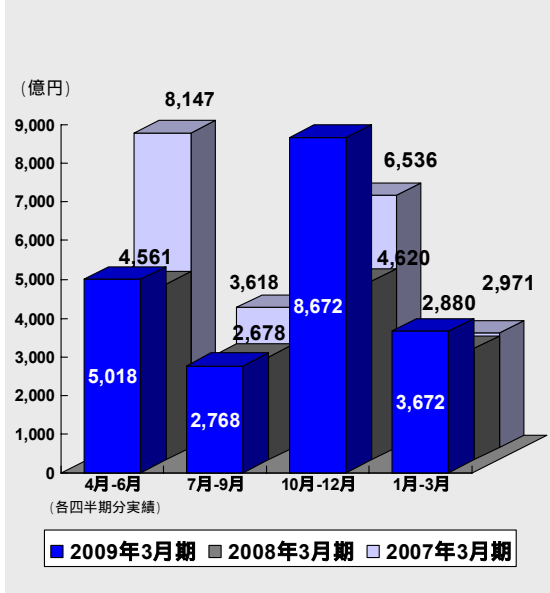
・太陽生命の新契約高は、昨年10月に投入した新商品「保険組曲Best」の販売が好調に推移し、前期から36.6%増加の2兆131億円となりました。また、転換による純増加は前年比146.7%増加の6,438億円となりました。

・また解約失効高は、良質契約の継続率を高める施策に引き続き注力したことにより、前期から7.6%減少しました。解約失効率についても、0.39ポイント改善し、7.25%となりました。

・その結果、保有契約高は年度始より1,730億円増加し、17兆3,552億円となりました。

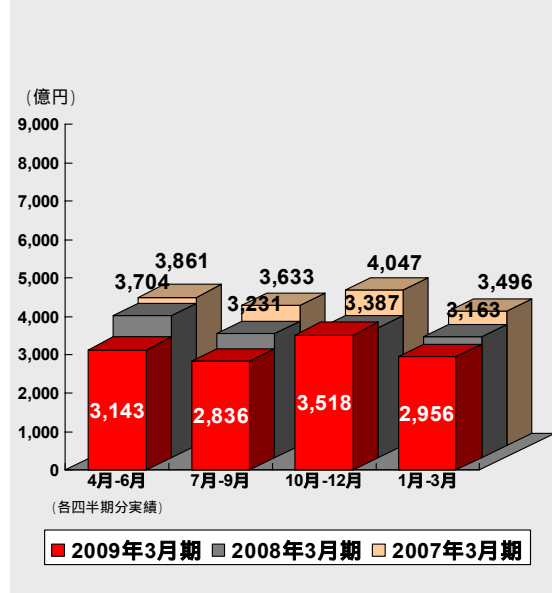
四半期別業績推移：太陽生命 (個人保険・個人年金)

新契約高*の推移



* 新契約高には、転換による純増加を含みます。

解約失効高の推移



・太陽生命の四半期別の新契約高および解約失効高の推移については、グラフのとおりです。

契約業績：T&Dフィナンシャル生命



変額個人年金販売状況

	2009年3月期		2008年3月期	
	件数	収入保険料**	件数	収入保険料**
販売実績	37,316件	2,182億円	12,263件	1,037億円
うち銀行窓販*	35,844件	2,104億円	10,840件	884億円
期末販売代理店*	57銀行、4証券会社、2その他		54銀行、3証券会社、2その他	

*銀行には信用金庫を含みます。 **新契約高に中途増額分を加えた、収入保険料ベースの販売実績を記載 (億円)

	2009年 3月期	2008年 3月期	増減率
新契約高*			
変額個人年金	2,162	933	131.6%
減少契約高**			
個人保険・個人年金合計	3,572	3,557	0.4%
うち解約失効高	1,353	1,655	▲18.3%
うち変額個人年金	159	275	▲42.1%
解約失効率***	2.68%	4.44%	▲1.76P
保有契約高			
個人保険・個人年金合計	21,200	22,610	▲6.2%
うち変額個人年金	6,749	5,968	13.1%
新契約年換算保険料*	412	127	224.1%
保有契約年換算保険料	1,346	993	35.5%

新商品「ファイブテン」(販売名称)の導入効果により、前期より1,228億円増加

変額個人年金の保有件数、保有契約高は年度始から34,707件、781億円の純増加

* 新契約には、転換による純増加を含みます ** 減少契約高 = 新契約高 - 各前年度末からの保有契約高の増加分
*** 解約失効率(年換算) = 解約失効高 / 年度始保有契約高

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

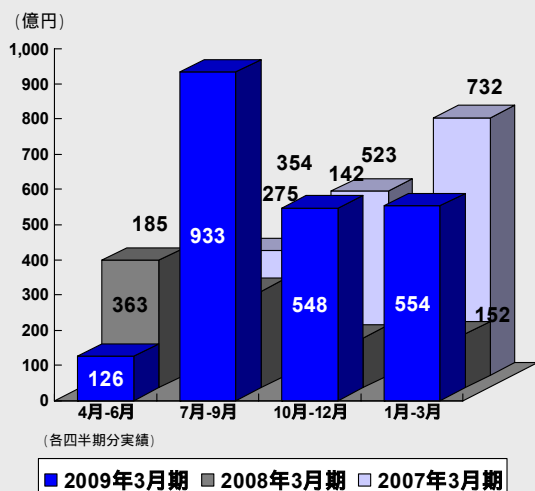
10

- ・T&Dフィナンシャル生命の変額年金の新契約高は、新商品「ファイブテン」の導入効果により、前期から1,228億円増加し、2,162億円となりました。
- ・変額年金の保有契約高は新契約高が増加した一方で、相場下落に伴い積立金の残高が減少したことから、年度始(5,968億円)より781億円の増加にとどまり、6,749億円となりました。
- ・なお、金融機関代理店数は、本日現在(2009年5月19日)で販売開始準備中4店を含め68代理店となりました。

四半期別業績推移：T&Dフィナンシャル生命 (変額個人年金)

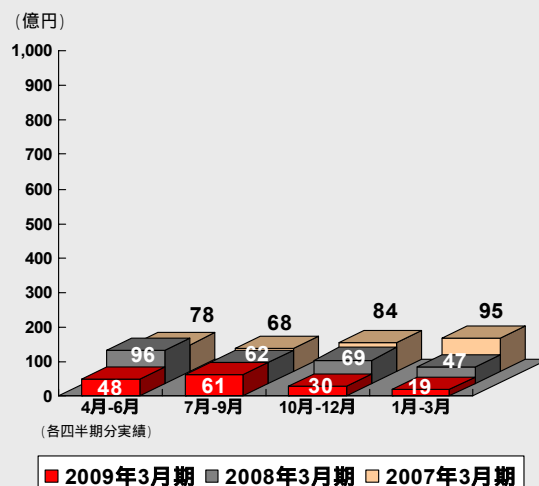


新契約高*の推移



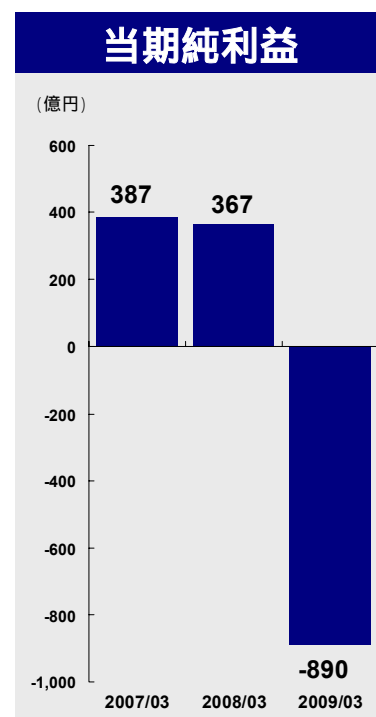
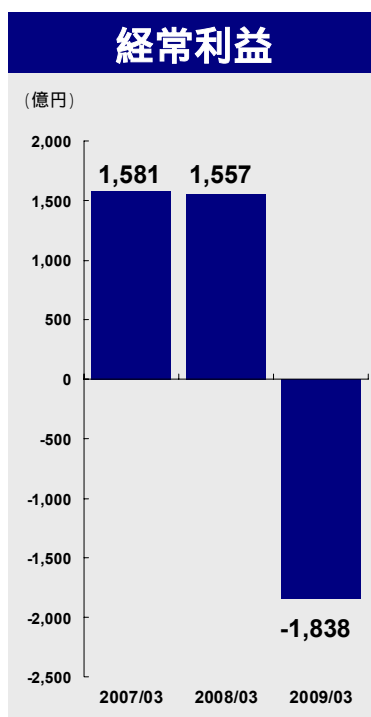
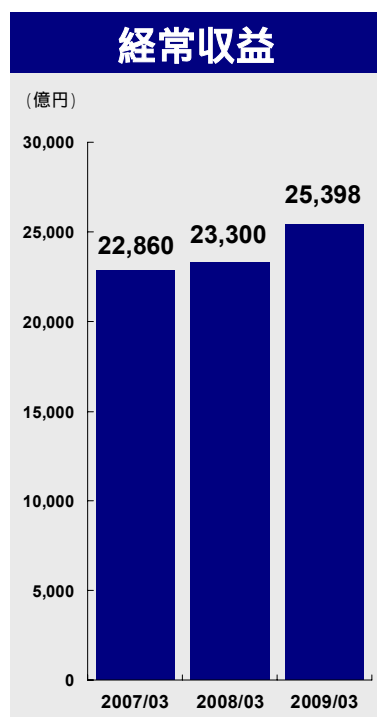
* 新契約高には、転換による純増加を含みます。

解約失効高の推移



・主力の変額年金について、四半期別の新契約高および解約失効高の推移をグラフに表しています。

連結主要収支



- ・連結主要収支はグラフのとおりです。
- ・次ページにて主要収支の詳細をご説明します。

連結損益計算書(要約)



	(億円)		
	2009年 3月期	2008年 3月期	増減額
経常収益	25,398	23,300	2,097
保険料等収入	16,544	16,131	412
資産運用収益	4,072	4,454	▲381
うち利息及び配当金等収入	2,555	2,883	▲327
うち金銭の信託運用益	195	293	▲98
うち有価証券売却益	1,181	1,024	156
うち金融派生商品収益	112	223	▲110
その他経常収益	4,780	2,714	2,066
うち責任準備金戻入額	3,952	1,981	1,970
経常費用	27,237	21,743	5,493
保険金等支払金	18,142	16,470	1,672
責任準備金等繰入額	8	25	▲16
資産運用費用	6,117	2,419	3,697
うち売買目的有価証券運用損	300	251	48
うち有価証券売却損	2,641	622	2,019
うち有価証券評価損	608	271	336
うちその他運用費用	1,283	180	1,102
うち特別勘定資産運用損	1,170	947	223
事業費	2,122	2,058	64
その他経常費用	845	769	76
経常利益	▲1,838	1,557	▲3,395
特別損益	839	▲314	1,153
契約者配当準備金繰入額	89	453	▲364
税金等調整前当期純利益	▲1,089	789	▲1,878
法人税等(含む調整額)	▲199	421	▲620
当期純利益	▲890	367	▲1,258

・大同生命: 313億円
・太陽生命: 391億円
・T&Dフィナンシャル生命: +1,116億円

・大同生命: 227億円(主にプライベート・エクイティ・ファンドからの分配金の減少による)
・太陽生命: 86億円(主に内外株式配当金および内外投信の分配金減少による)

・大同生命: 202億円(前期比+53億円)
・太陽生命: 979億円(前期比+106億円)

・大同生命: +274億円(前期比 18億円)
・太陽生命: 162億円(前期比 91億円)

・大同生命: +1,198億円(主に団体年金)
・太陽生命: +566億円(主に団体年金)

・大同生命: 707億円(前期比+606億円)
・太陽生命: 1,931億円(前期比+1,411億円)

大同生命において含み損の投信を解約したことによる

・大同生命: 369億円(前期比+175億円)
・太陽生命: 235億円(前期比+158億円)

価格変動準備金戻入額848億円
・大同生命: 315億円(前期は119億円の繰入)
・太陽生命: 532億円(前期は207億円の繰入)

・大同生命: 313億円
・太陽生命: 391億円
・T&Dフィナンシャル生命: +1,116億円

・大同生命: 227億円(主にプライベート・エクイティ・ファンドからの分配金の減少による)
・太陽生命: 86億円(主に内外株式配当金および内外投信の分配金減少による)

・大同生命: 202億円(前期比+53億円)
・太陽生命: 979億円(前期比+106億円)

・大同生命: +274億円(前期比 18億円)
・太陽生命: 162億円(前期比 91億円)

・大同生命: +1,198億円(主に団体年金)
・太陽生命: +566億円(主に団体年金)

・大同生命: 707億円(前期比+606億円)
・太陽生命: 1,931億円(前期比+1,411億円)

大同生命において含み損の投信を解約したことによる

・大同生命: 369億円(前期比+175億円)
・太陽生命: 235億円(前期比+158億円)

価格変動準備金戻入額848億円
・大同生命: 315億円(前期は119億円の繰入)
・太陽生命: 532億円(前期は207億円の繰入)

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

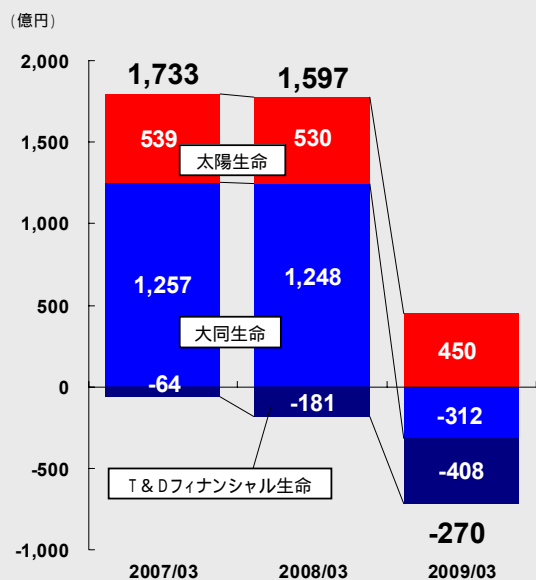
・連結損益計算書はご覧のとおりです。ここでは、経常利益と当期純利益についてご説明いたします。

まず、経常利益は1,838億円の損失となり、前期より3,395億円減少しました。これは主に、有価証券売却損・評価損、その他運用費用が増加したことによります。このうち、その他運用費用の増加は主に、大同生命において、含み損の投信解約に伴い実現損が増加したことによります。

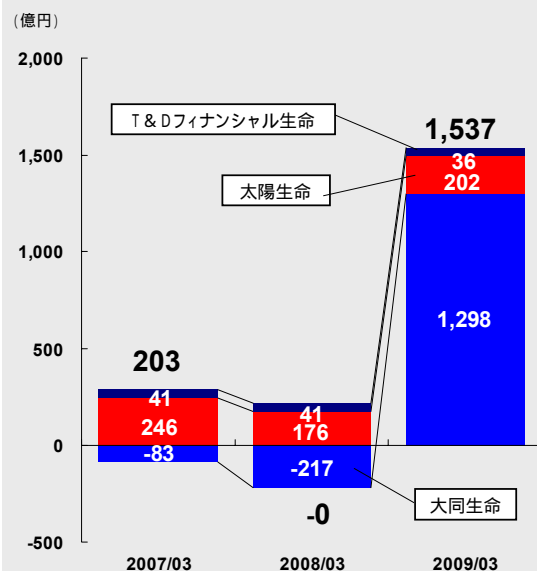
・経常利益が3,395億円減少した一方、価格変動準備金を取り崩し848億円戻入したこと(前期は繰入327億円)、また法人税等が減少した結果、当期純利益は前期から1,258億円減少し、890億円の損失となりました。

基礎利益・逆ざや

基礎利益



逆ざや



* 2008年3月期、2007年3月期の3社合算の逆ざや額は大同生命の順ざや額(2008年3月期: 217億円、2007年3月期: 83億円)を控除しています。

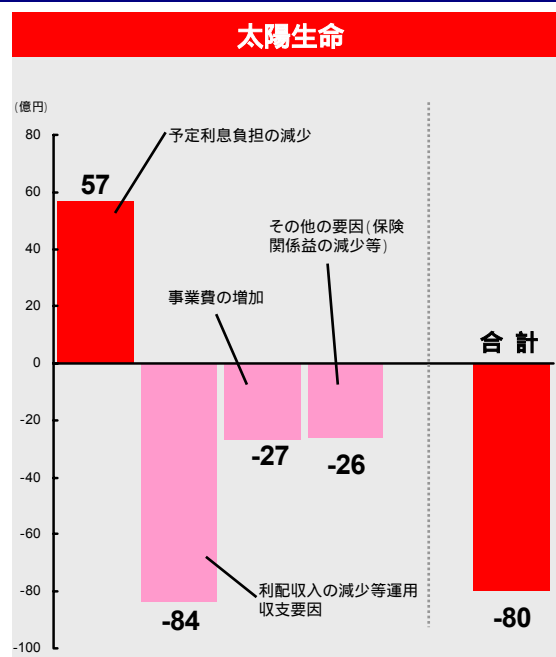
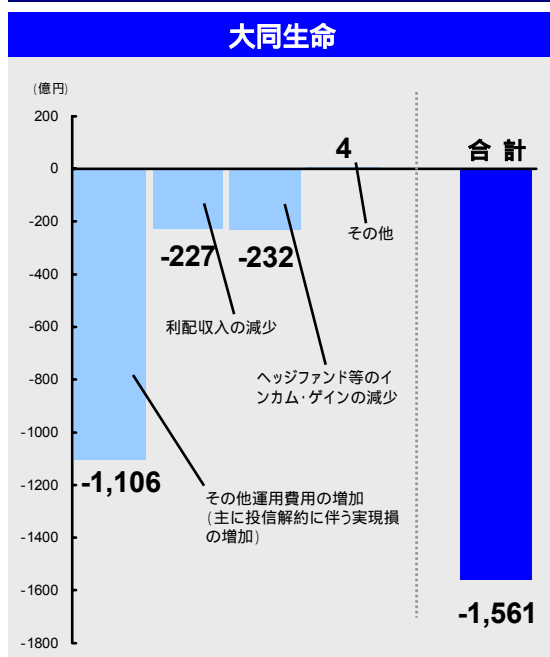
株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

・3社合算の基礎利益は 270億円となり、前期から1,868億円減少しました。基礎利益が減少した主な要因は、大同生命でその他運用費用が1,106億円増加(主に含み損の投信解約による実現損の増加)、またT&Dフィナンシャル生命で最低保証リスクに係る責任準備金繰入額が210億円増加したことに加え、3社合算の利息及び配当金等収入が314億円減少したことによります。

・また、3社合算ベースの逆ざや額は1,537億円となりました。

基礎利益の増減要因

2009年3月期の基礎利益の増減要因(2008年3月期比)



・大同生命、太陽生命の基礎利益の、前期との増減要因はご覧のとおりです。

連結貸借対照表(要約)

・大同生命: 532億円(前期比 294億円)
 ・太陽生命: 768億円(前期比 250億円)

・HD: シニアローン1,127億円(前期比 +1,020億円)
 ・太陽生命: 劣後ローン350億円(前期比増減なし)

(億円)				(億円)			
	2009年 3月期	2008年 3月期	増減額		2009年 3月期	2008年 3月期	増減額
資産の部				負債の部			
現金・預金	7,171	5,882	▲ 1,289	保険契約準備金	116,990	121,377	▲ 4,387
買入金銭債権	4,432	4,305	▲ 126	責任準備金	114,804	118,756	▲ 3,952
金銭の信託	781	1,347	▲ 566	危険準備金	1,476	1,982	▲ 505
有価証券	82,185	92,445	▲ 10,260	その他負債	3,066	2,329	▲ 736
貸付金	22,807	23,634	▲ 827	借入金	1,704	666	▲ 1,037
有形固定資産	3,086	3,092	▲ 6	価格変動準備金	524	1,372	▲ 848
無形固定資産	234	237	▲ 3	負債合計	122,021	126,887	▲ 4,866
その他資産	1,917	1,990	▲ 72	純資産の部			
繰延税金資産	2,279	664	▲ 1,615	株主資本	4,284	4,759	▲ 475
貸倒引当金	▲ 26	▲ 39	▲ 12	資本金	1,476	1,185	▲ 290
資産合計	124,985	133,660	▲ 8,674	資本剰余金	1,351	1,061	▲ 290
				利益剰余金	1,466	2,519	▲ 1,053
				評価・換算差額等	▲ 1,338	1,994	▲ 3,332
				その他有価証券評価差額金	▲ 862	2,468	▲ 3,331
				土地再評価差額金	▲ 478	▲ 480	▲ 2
				純資産合計	2,963	6,772	▲ 3,808
				負債純資産合計	124,985	133,660	▲ 8,674

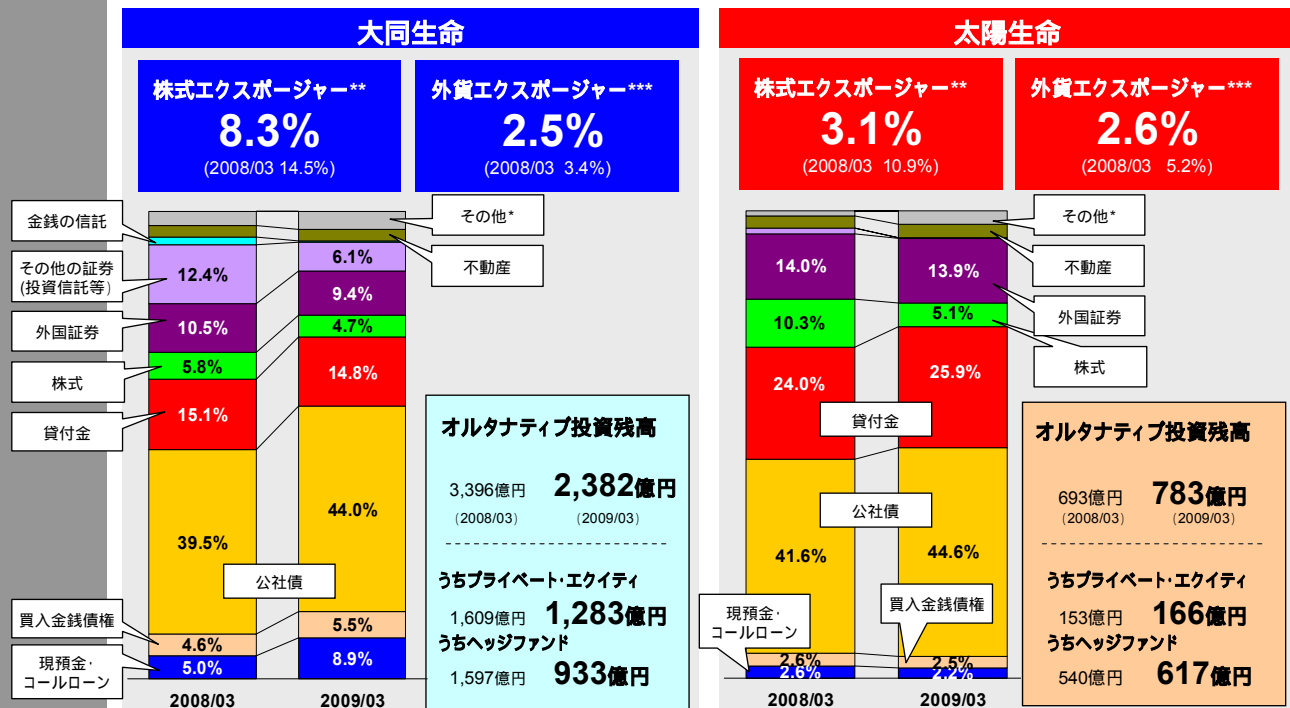
・大同生命: 420億円(前期比 315億円)
 ・太陽生命: 100億円(前期比 532億円)

2009年3月に増資(580億円)

・大同生命: 860億円(前期比 1,979億円)
 ・太陽生命: +9億円(前期比 1,352億円)

・要約連結貸借対照表はご覧のとおりです。

一般勘定資産構成比



*その他資産：繰延税金資産など **株式先物、投信、金銭の信託内の株式等を含めた実質的な株式エクスポージャー ***為替ヘッジ等を含めた実質的な外貨エクスポージャー ****エクスポージャー比率の計算は各社の採用する方法によります

- ・各社の一般勘定の資産構成比はご覧のとおりです。
- ・実質的な株式のエクスポージャーは、大同生命が8.3%、太陽生命が3.1%となりました。大同生命、太陽生命ともに、リスク管理の観点から売却を行い、時価も下落したことなどから、前期末に比べそれぞれ6.2ポイント、7.8ポイント低下しました。また、実質的な外貨エクスポージャーも、大同生命が2.5%、太陽生命が2.6%となりました。
- ・2009年3月末のオルタナティブ投資資産残高は、大同生命が1,013億円減少し2,382億円、太陽生命が783億円となりました。

一般勘定資産の差損益

(時価のあるものを対象)

(億円)

	大同生命		太陽生命		T&Dフィナンシャル生命		生保3社合算		増減額
	2009年 3月期	2008年 3月期	2009年 3月期	2008年 3月期	2009年 3月期	2008年 3月期	2009年 3月期	2008年 3月期	
合計	▲ 526	1,638	241	2,666	29	14	▲ 254	4,320	▲ 4,575
公社債	70	307	384	631	29	15	485	954	▲ 468
株式	359	1,147	86	2,105	-	-	446	3,253	▲ 2,806
外国証券	▲ 185	▲ 38	▲ 232	7	-	▲ 0	▲ 417	▲ 31	▲ 386
公社債	▲ 93	▲ 12	▲ 41	73	-	-	▲ 134	61	▲ 195
株式等	▲ 91	▲ 25	▲ 191	▲ 66	-	▲ 0	▲ 283	▲ 92	▲ 190
その他の証券	▲ 768	164	▲ 1	▲ 110	-	▲ 0	▲ 769	53	▲ 822
買入金銭債権	▲ 3	54	3	32	-	-	▲ 0	87	▲ 87
譲渡性預金	-	-	-	0	-	-	-	0	▲ 0
金銭の信託	-	3	-	-	-	-	-	3	▲ 3
土地等の差損益	303	352	223	358	-	-	527	710	▲ 183

* 大同生命、太陽生命の土地等の差損益は、原則として鑑定評価額(重要性の低い物件等については公示価格等)をもとに算出しています

・3社合算の有価証券の差損益合計は内外株式の下落などにより年度始から4,575億円減少し、254億円となりました。

健全性指標・EEV上の修正純資産

(億円)

	2009年 3月期	2008年 3月期	増減
大同生命			
ソルベンシー・マージン比率	823.4%	1,096.3%	▲ 272.9P
実質純資産	4,479	7,772	▲ 3,292
EEV上の修正純資産	3,043	5,329	▲ 2,285
太陽生命			
ソルベンシー・マージン比率	866.4%	1,000.6%	▲ 134.2P
実質純資産	3,304	6,597	▲ 3,293
EEV上の修正純資産	2,700	4,847	▲ 2,147
T&Dフィナンシャル生命			
ソルベンシー・マージン比率	832.0%	912.4%	▲ 80.4P
実質純資産	871	637	233
EEV上の修正純資産	635	395	239
生保3社合計			
実質純資産	8,655	15,007	▲ 6,352
EEV上の修正純資産	* 5,353	10,571	▲ 5,218

資産運用収支やその他有価証券評価差損益が大幅に減少したこと等により、各指標とも減少・低下

最低保証リスクに係る責任準備金繰入額が増加したことにより、減少

* T&Dホールディングスの資本調達額と生保3社への資本供与額の差額1,025億円を3社合算より控除した金額としています

・ソルベンシー・マージン比率、実質純資産、EEV上の修正純資産は表のとおりです。

・資産運用収支やその他有価証券評価差損益が大幅に減少したため、各指標とも低下・減少しました。なお、資本増強(大同生命700億円、太陽生命500億円、T&Dフィナンシャル生命400億円)を実施したことにより、ソルベンシー・マージン比率は各社ともに800%超の水準となりました。

2010年3月期 通期業績予想



通期業績予想 (T&Dホールディングス連結)

	2010年3月期 通期予想	2009年 3月期	増減率	(億円) 2008年3月期 (参考)
経常収益	20,100	25,398	▲ 20.9%	23,300
経常利益	780	▲ 1,838	-	1,557
当期純利益	180	▲ 890	-	367

通期見通し (生保3社単体合算)

	2010年3月期 通期見通し	2009年 3月期	増減率	(億円) 2008年3月期 (参考)
新契約高	63,000	59,910	5.2%	62,018
保有契約高	575,500	580,971	▲ 0.9%	593,403
保険料等収入	16,900	16,543	2.2%	16,131
基礎利益	1,010	▲ 270	-	1,597
逆ざや	500	1,537	▲ 67.5%	-

* 個人保険、個人年金保険合計。新契約高には、転換による純増加を含みます

- ・T & Dホールディングスの連結業績予想は表のとおりです。
- ・金融市場の混乱に伴う有価証券売却損、有価証券評価損の増加という要因がなくなるため、経常利益、当期純利益ともに黒字転換予想としています。
- ・3社合算の主な業績予想は表のとおりです。次のページでは、各社ごとの業績予想をお示ししています。

(参考)2010年3月期 通期業績予想:生保3社



(億円)

	大同生命			太陽生命			T&Dフィナンシャル生命			
	2010年 3月期	2009年 3月期	2008年 3月期	2010年 3月期	2009年 3月期	2008年 3月期	2010年 3月期	2009年 3月期	2008年 3月期	
通期業績予想	経常収益	9,700	12,505	11,363	9,100	11,121	10,003	2,700	2,853	1,804
	保険料等収入	7,800	8,119	8,433	6,600	5,966	6,357	2,500	2,457	1,340
	経常利益	500	▲ 933	1,046	410	▲ 636	570	▲ 140	▲ 268	▲ 96
	基礎利益	550	▲ 312	1,248	500	450	530	▲ 40	▲ 408	▲ 181
	当期純利益	170	▲ 520	304	110	▲ 155	120	▲ 100	▲ 198	▲ 69
通期見通し	新契約高	38,600	37,616	46,342	22,000	20,131	14,741	2,400	2,162	933
	各社主力商品	37,200	36,270	44,898	-	-	-	1,800	2,162	933
	保有契約高	377,400	386,218	398,971	176,800	173,552	171,822	21,300	21,200	22,610
	各社主力商品	344,200	351,055	361,753	-	-	-	8,200	6,749	5,968
	保有契約年換算保険料	6,400	6,648	6,891	6,000	6,130	6,373	1,700	1,346	993
	逆ざや額	300	1,298	**	170	202	176	30	36	41
	解約失効率	9.8%	10.01%	8.93%	7.5%	7.25%	7.64%	5.7%	5.98%	6.56%

* 契約高は個人保険・個人年金保険。新契約高には、転換による純増加を含みます。大同生命の主力商品は個人定期保険。T&Dフィナンシャル生命の主力商品は変額個人年金保険。
** 2008年3月期の大同生命は217億円の逆ざやとなっています

- ・生保3社の通期業績予想については、表のとおりです。
- ・また、生保3社の新契約高の通期見通しについて、各社ごとにご説明します。
- ・まず大同生命では、前期に比べて約1,000億円の増加となる約3兆8,600億円の見通しとしています。前期は急速な景況感の悪化により4兆円を割り込む結果となりましたが、大同生命の中小企業市場における競争優位性は確保されており、前期以上に悪化することはないと考えています。
- ・次に、太陽生命では、「保険組曲Best」の販売が引き続き好調に推移すると見込んでおり、前期に比べて約1,900億円の増加となる約2兆2,000億円の見通しとしています。
- ・また、T&Dフィナンシャル生命では、約240億円の増加となる約2,400億円の見通しとしています。内訳は、変額年金で1,800億円、今期中に投入を予定している定額年金等で600億円を見込んでいます。

株主還元

- 当面は将来の成長に向けて健全性強化に重点を置く
- 中長期的には、実質的な利益 = 配当還元対象利益*の30%程度の株主還元を目指す

* 配当還元対象利益: 当期純利益に負債内部留保の超過繰入(税引後)を加えた額

(各3月期)	2005	2006	2007	2008	2009
1株あたり配当金	45円	55円	65円	65円	45円
配当総額	108億円	135億円	160億円	160億円	123億円
配当還元対象利益	371億円	615億円	638億円	657億円	-
当期純利益	371億円	355億円	387億円	367億円	890億円
負債内部留保の超過繰入額(税引後)	-	260億円	250億円	289億円	-

2010年3月期予想

45円

・株主還元については、実質的な利益、すなわち、当期純利益に税引後の負債内部留保超過繰入額を加えた配当還元対象利益の30%程度とする考え方を継続します。

・2009年3月期は、赤字決算となったものの安定配当という観点から1株あたり45円の配当としました。

・2010年3月期については、1株あたり配当金予想は45円としています。

ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー (EEV)

・ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー(EEV)

- T&D保険グループのEEVは8,665億円となり、前期末より7,551億円減少
- うち新契約価値は285億円となり、前期より334億円減少

・2009年3月期末のヨーロッパ・エンベディッド・バリューについてご説明いたします。以下ヨーロッパ・エンベディッド・バリューはEEVと略して申し上げます。

・1点目として、T&D保険グループのEEVは前期末の1兆6,216億円から7,551億円減少し、8,665億円となりました。

・2点目として、EEVのうち新契約価値は前期の620億円から334億円減少し、285億円となりました。

・次ページより詳しくご説明いたします。

計算結果

(億円)

	2009年3月末	2008年3月末	増減
T&D保険グループ			
EEV	8,665	16,216	▲ 7,551
修正純資産	5,353	10,571	▲ 5,218
既契約の将来価値	3,311	5,644	▲ 2,333
うち新契約価値	285	620	▲ 334
(内訳)			
大同生命			
EEV	6,074	9,907	▲ 3,832
修正純資産	3,043	5,329	▲ 2,285
既契約の将来価値	3,031	4,577	▲ 1,546
うち新契約価値	189	462	▲ 272
太陽生命			
EEV	2,958	5,749	▲ 2,791
修正純資産	2,700	4,847	▲ 2,147
既契約の将来価値	258	902	▲ 644
うち新契約価値	205	182	22
T&Dフィナンシャル生命			
EEV	657	560	97
修正純資産	635	395	239
既契約の将来価値	22	164	▲ 142
うち新契約価値	▲ 109	▲ 24	▲ 84

* 新契約価値は、将来獲得する新契約の価値を含みません。転換契約は、転換による価値の純増加分のみを算入しています

- ・最初に、EEVの計算結果をご説明します。
- ・当グループのEEVは8,665億円、うち新契約価値は285億円となりました。
- ・まず、修正純資産は、主に株式市場の下落による有価証券の含み損益の減少などで5,218億円の減少となりました。
- ・次に、既契約の将来価値はリスク・フリー・レートの低下による影響などにより、2,333億円減少しました。
- ・また、新契約価値は金利低下の影響などにより、334億円減少しました。

主な前提条件：経済的前提

割引率・運用利回り

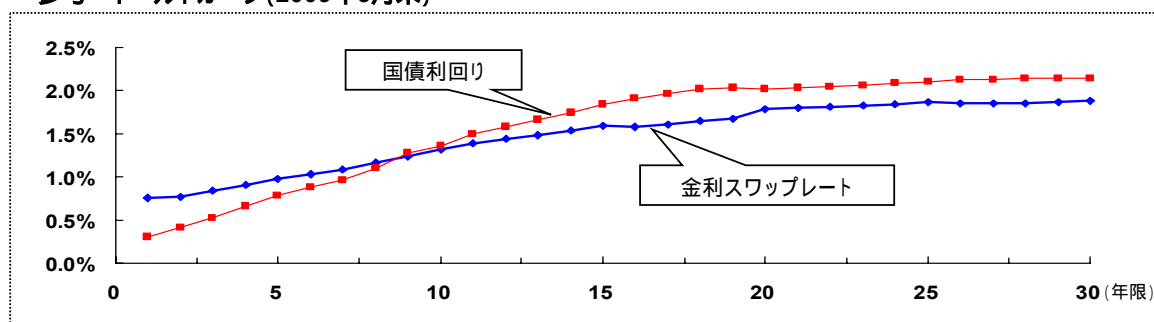
- 既契約の将来価値の計算において、割引率・運用利回りには、評価日現在金利スワップレート(仲値; 下表)を使用

(%)

(年限)	1年	2年	3年	4年	5年	10年	15年	20年	25年	30年	40年	50年
2009年3月末	0.750	0.770	0.840	0.908	0.970	1.314	1.595	1.791	1.863	1.879	1.889	1.917
2008年3月末	0.915	0.898	0.939	0.988	1.043	1.462	1.804	2.041	2.184	2.264	-	-

*Bloombergよりデータ取得 **30年超のスワップレートについては、前年までは30年までの利回りを基に推定して使用しています

<参考> イールドカーブ(2009年3月末)



株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

- ・次に、当グループのE E V計算上の主要な前提条件のうち割引率・運用利回りについてご説明します。
- ・当グループはE E Vの計算上、割引率・運用利回りには、評価日現在の金利スワップレートを使用していますが、金融市場の急激な変動を受けて、2009年3月末の長期の金利スワップレートが国債利回りを大幅に下回るという逆転現象が生じています。
- ・次のページにて、この逆転現象を修正した場合の影響について説明いたします。

金利スワップレートを修正した場合の感応度

(億円)

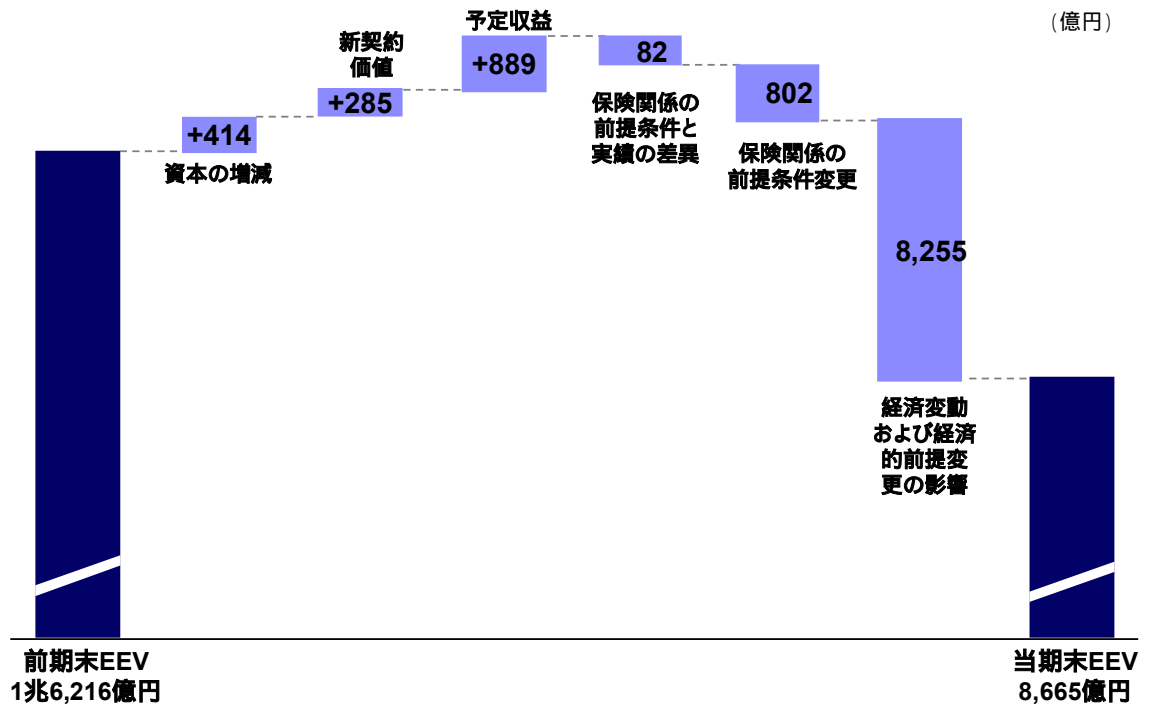
	修正後 (長期の金利スワップ レートを国債利回り と同水準とした場合)	現行	差額
T&D保険グループ			
既契約の将来価値	4,785	3,311	1,473
新契約価値	358	285	72

(内訳)

大同生命			
既契約の将来価値	3,775	3,031	744
新契約価値	246	189	56
太陽生命			
既契約の将来価値	930	258	672
新契約価値	221	205	16
T&Dフィナンシャル生命			
既契約の将来価値	78	22	55
新契約価値	▲ 109	▲ 109	0

- ・金利スワップレートと国債利回りの逆転現象が生じている長期部分について、仮にその対応する年限の金利スワップレートを国債利回りと同水準とした場合、既契約の将来価値は4,785億円となり、現行の3,311億円から1,473億円増加します。また、新契約価値は、358億円となり、現行の285億円から72億円増加します。
- ・各社別の既契約の将来価値は、大同生命が744億円増加し3,775億円、太陽生命が672億円増加し930億円、T&Dフィナンシャル生命が55億円増加し78億円となります。

変動要因



・ここでは、前期末から当期末において当グループのEEVがどのような要因によって増減したかをご説明します。

・はじめに、前期末からの資本の増減があります。これは、T&Dホールディングスが公募増資により調達した資本等574億円から、株主へ支払った配当金額160億円を差し引き、414億円が増加しました。

・次に、新契約獲得により285億円増加しました。

・続いて、予定収益により889億円増加しました。

これは、リスク・フリー・レート部分とリスク・プレミアム部分に分かれます。

リスク・フリー・レート部分は、修正純資産に相当する資産を1年のリスク・フリー・レートで運用した場合の期待運用収益(税引後)、2008年3月末の保有契約から生じる将来価値をリスク・フリー・レートで割り戻した1年分の利息相当額及び2009年3月期分のオプションと保証の時間価値、必要資本維持のための費用、非フィナンシャルリスクに係る費用の合計です。

リスク・プレミアム部分は、各資産の1年間の期待運用収益(税引後)のうち、リスク・フリー・レート以外のリスク・プレミアム分です。

・また、保険関係の前提条件と実績の差異として82億円減少しました。

・さらに、保険関係の前提条件、主に解約失効率、事業費率を変更したことにより、802億円減少しました。

・最後に、経済変動および経済的前提変更の影響があります。予定収益に含まれる運用収益と運用実績との差異および経済的前提を変更したことによる将来価値への影響です。これは、市場環境の変動(株価の下落)による修正純資産の減少や、リスク・フリー・レートの低下による既契約の将来価値の減少等です。これにより、8,255億円が減少しました。

・29ページに増減要因の内訳、30ページに各社別の増減要因を掲載しておりますので、後ほどご覧ください。

(参考) 変動要因内訳

(億円)

	EEV		
		修正純資産	既契約の将来価値
2008年3月末EEV	16,216	10,571	5,644
資本の増減	414	414	-
2009年3月期新契約価値	285	▲ 621	906
予定収益	889	138	750
リスク・フリー・レート部分	264	64	200
リスク・プレミアム部分	625	74	550
既契約の将来価値から修正純資産への予定収益の移転	-	1,044	▲ 1,044
保険関係の前提条件と2009年3月期実績の差異	▲ 82	▲ 58	▲ 24
保険関係の前提条件変更	▲ 802	-	▲ 802
経済変動および経済的前提変更の影響	▲ 8,255	▲ 6,136	▲ 2,118
2009年3月期EEV増減	▲ 7,551	▲ 5,218	▲ 2,333
2009年3月末EEV	8,665	5,353	3,311

・(参考) 変動要因内訳

(参考) 各社別変動要因内訳

(億円)

	大同生命	太陽生命	T&D フィナンシャル生命	T&D ホールディングス
2008年3月末EEV	9,907	5,749	560	-
資本の増減 *1	618	421	400	▲ 1,025
2009年3月期新契約価値	189	205	▲ 109	-
予定収益	499	367	22	-
リスク・フリー・レート部分	179	68	16	-
リスク・プレミアム部分	320	298	5	-
既契約の将来価値から修正 純資産への予定収益の移転 *2	-	-	-	-
保険関係の前提条件と2009年3月 期実績の差異	▲ 87	12	▲ 7	-
保険関係の前提条件変更	▲ 806	▲ 13	16	-
経済変動および経済的前提変更の 影響	▲ 4,245	▲ 3,784	▲ 224	-
2009年3月期EEV増減	▲ 3,832	▲ 2,791	97	▲ 1,025
2009年3月末EEV	6,074	2,958	657	▲ 1,025

*1 T&Dホールディングスの資本増減は、T&Dホールディングスが生命保険事業に係り調達した資本等574億円から、子会社への資本供与1,600億円を控除した額です。この差額は主に2009年3月期にT&Dホールディングスが外部から行った借入金に相当します。生保子会社の資本の増減は、T&Dホールディングスからの資本供与額から株主配当金を控除した額です

*2 EEVの増減には影響しないため金額を記載していません。なお、各社の金額は大同生命718億円、太陽生命278億円、T&Dフィナンシャル生命47億円です

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

・(参考)各社別変動要因内訳

センシティブティ

(億円)

			EEV	うち新契約価値 ²
2009年3月末EEV			8,665	285
経済的 要因	リスク・フリー・レート ¹ (うち修正純資産の変動額)	+0.5%	1,685 (▲ 1,459)	119
		-0.5%	▲ 2,235 (1,523)	▲ 143
	株式・不動産価値 (うち修正純資産の変動額)	-10%	▲ 819 (▲ 752)	▲ 7
その他 の要因	解約失効率	x 0.9	393	59
	事業費率(契約維持に関する事業費)	x 0.9	392	27
	生命保険における保険事故発生率	x 0.95	700	50
	年金保険における死亡率	x 0.95	▲ 33	0
必要資本を法定最低水準に変更			319	8
必要資本をソルベンシー・マージン比率1,000%水準に変更			▲ 363	▲ 15
株式ボラティリティが25%上昇			▲ 271	▲ 3
金利ボラティリティが25%上昇			▲ 272	▲ 4

¹ 債券・貸付金等金利の変動により時価が変動する資産を再評価するとともに、運用利回りおよび割引率を変動させて既契約の将来価値を再計算させる。契約者行動は、これらの状況に対応して調整しています。「リスク・フリー・レート-0.5%」が負になる場合は、それを0%として計算しています

² 新契約価値の感応度は、将来価値への影響を表しており、新契約獲得による修正純資産への影響は当年度の実績値であるため影響しません

・続いて、センシティブティについて説明します。

・リスクフリーレートが上昇した場合よりも低下した場合の額が大きくなっています。これは、リスクフリーレートが上昇した場合、運用利回りの上昇により利益が増加しますが、有配当契約における契約者配当の支払いにより、その利益は一部圧縮されます。一方で、金利が低下した場合は、運用利回りの低下による利益減少に加えて、予定利率保証があることや契約者配当の減額調整が小幅に留まることによります。

・また、株式・不動産価格が10%下落した場合、EEV総額にマイナス819億円の影響があります。2008年3月末時点では1,570億円でしたが、リスク性資産を圧縮したことにより、大幅に減少しました。

アクチュアリー・ファームの意見書

- 当グループでは、保険数理に関する専門的知識を有する第三者機関(アクチュアリーファーム)であるタワーズペリンのティリングハスト・インシュアランス・コンサルティング部門に計算方法、計算前提、EEVと新契約価値の計算結果と感応度についての検証を依頼し、意見書を受領しています。
- 同意見書については、当社ホームページ <http://www.td-holdings.co.jp/> にてご参照いただけます。

・アクチュアリー・ファームの意見書

2009年3月期レビューおよび 2010年3月期グループ経営方針

・2009年3月期レビューおよび2010年3月期グループ経営方針

2009年3月期レビュー

世界的な金融危機

米国サブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機により株式市場は大幅下落



資産運用

- 資産運用収支が大幅に悪化し、当期純利益の赤字計上の主要因となる
- リスクバッファの減少に伴い、リスク性資産を圧縮

資本

- 大同生命:700億円、太陽生命:500億円の資本増強を実施(2009年3月末)
- T&Dフィナンシャル生命:400億円の資本増強を実施(2008年12月)

契約業績

- 中小企業の業績悪化により、大同生命の新契約高が前期比で18.8%減少、20年ぶりに4兆円を割る
- 太陽生命、T&Dフィナンシャル生命の新契約高は、新商品の販売好調により前期から増加

・ここからは、2009年3月期のレビューと2010年3月期の方針をご説明します。

・当期の業績の悪化要因は、「2008年9月以降の世界的な金融危機」に集約されます。金融危機により資産運用収支や契約業績が減少し、また不透明な状況のなかで競争優位性を維持するため、資本増強が必要な状況となりました。

2009年3月期レビュー：資産運用 (金融危機による影響)



■ 有価証券売却損益・評価損は、前期から2,199億円減少し、2,068億円となる

(億円)

	生保3社合算			大同生命			太陽生命		
	2009年 3月期	2008年 3月期	増減	2009年 3月期	2008年 3月期	増減	2009年 3月期	2008年 3月期	増減
国債等債券	323	50	373	38	0	37	364	48	412
株式等	1,339	16	1,323	579	128	451	759	109	869
外国証券	949	200	1,150	168	13	154	780	215	995
その他	102	2	100	88	2	85	12	-	12
合計	2,068	130	2,199	875	146	729	1,187	276	1,463
その他運用費用のうち 投信解約損				1,134	37	1,097			
売買目的有価証券運用損				300	251	48			

■ 有価証券含み損益は、前期から4,575億円減少し、254億円となる

(億円)

	生保3社合算			大同生命			太陽生命		
	2009年 3月期	2008年 3月期	増減	2009年 3月期	2008年 3月期	増減	2009年 3月期	2008年 3月期	増減
公社債	485	954	468	70	307	236	384	631	246
株式	446	3,253	2,806	359	1,147	787	86	2,105	2,018
外国証券	417	31	386	185	38	146	232	7	239
その他の証券	769	53	822	768	164	932	1	110	109
その他	0	90	90	3	58	61	3	32	29
合計	254	4,320	4,575	526	1,638	2,164	241	2,666	2,425

*時価のあるものを対象

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

35

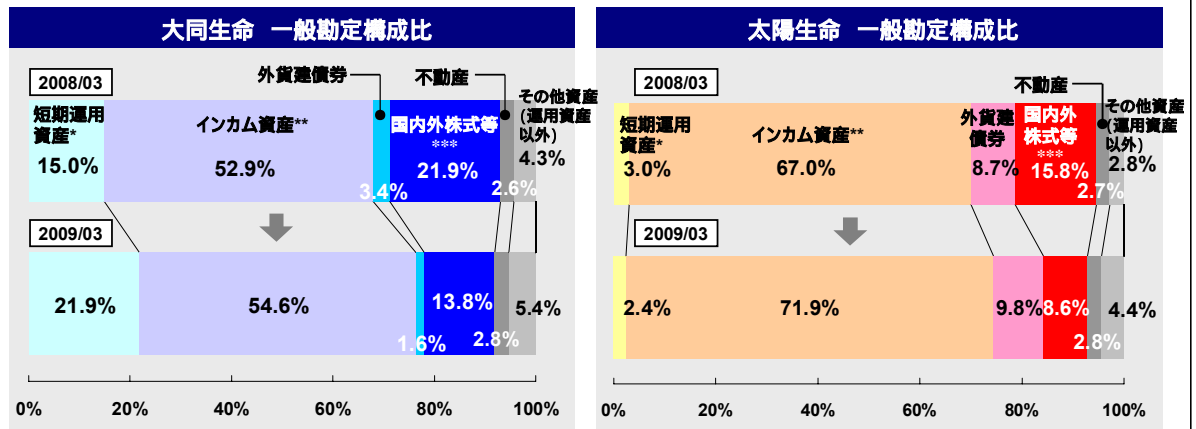
・金融危機の影響により、生保3社合算で、有価証券売却損益と有価証券評価損を併せて2,068億円を計上、有価証券含み損益は前期末比4,575億円減少しました。加えて、大同生命は、その他運用費用として投資信託解約損1,134億円、売買目的有価証券運用損300億円を計上しました。

・大同生命では、資産の健全化に向けて含み損処理を行い、売却損を計上しました。また、太陽生命は、財務の健全性確保を最優先に内外株式を中心としたリスク性資産を大幅に削減しており、その過程で売却損を計上しました。

・なお、当グループでは時価のある有価証券については、従来より帳簿価額から時価が30%下落した場合、一律に減損処理を実施しています。

2009年3月期レビュー：資産運用 (リスク性資産の圧縮)

■ リスクバッファの減少にあわせて、リスク性資産を圧縮



*短期運用資産：現預金、コールローン等 **インカム資産：円建債券、貸付等
 ***国内外株式等：国内株式、外国株式、株式投信、オルタナティブ投資資産等、ヘッジは考慮していないため、実質的なエクスポージャーとは異なります
 ****分類方法は各社の基準によります

	大同生命		太陽生命	
国内株式エクスポージャー	14.5%	8.3%	10.9%	3.1%
外貨エクスポージャー	3.4%	2.5%	5.2%	2.6%
オルタナティブ投資資産	5.7%	4.4%	1.1%	1.4%

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

・前のページでご説明したとおり、太陽生命・大同生命ともに下期においてリスク性資産を圧縮した結果、エクスポージャーは大幅に低下しました。

・損失が発生し回復が見込めない資産や、今後のリスクが不透明な資産は売却を進めるとともに、厳格な評価ルールに基づく減損処理を行った結果、運用資産のリスク耐久力が高まりました。

2009年3月期レビュー：資本の状況

■ 生保3社に対し合計1,600億円の資本増強を行い、財務基盤を強化

	大同生命	太陽生命	T&Dフィナンシャル生命											
背景	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中小企業経営者や提携団体は健全性や財務基盤への関心が高いため、特に業界内でもトップクラスの健全性が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中高年・主婦層は健全性への注目度が高く、安定した保険契約獲得のためには高い健全性が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 代理店の信頼を得るためには、高い健全性が必要 ■ 変額年金は利益が出るまでに時間がかかるため、新契約獲得のステージでは充実した資本が必要 											
考え方	不透明な金融情勢のなか、それぞれの市場で競争優位性を確保するためには、コアの自己資本の更なる充実が必要と判断		新商品の堅調な販売状況を踏まえ、資本増強が必要と判断											
資本増強の概要	<p>既存株主の利益の希薄化等を考慮し、公募増資と銀行借入れを組み合わせ、T&Dホールディングスが資金を調達(2009年3月)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>公募増資</td> <td>580億円</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">→</td> <td style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">大同生命 700億円</td> </tr> <tr> <td>銀行借入れ</td> <td>620億円</td> <td style="background-color: #ff0000; color: white; padding: 5px;">太陽生命 500億円</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border-top: 1px solid black; text-align: center;">1,200億円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		公募増資	580億円	→	大同生命 700億円	銀行借入れ	620億円	太陽生命 500億円	1,200億円				<ul style="list-style-type: none"> ■ T&Dホールディングスの銀行借入れにより、機動的に400億円の資金を調達(2008年12月)
公募増資	580億円	→	大同生命 700億円											
銀行借入れ	620億円		太陽生命 500億円											
1,200億円														

- ・次に資本の状況についてご説明します。
- ・2009年3月期は生保3社に対し、合計1,600億円の資本増強を行い、財務基盤を強化しました。
- ・まず、T&Dフィナンシャル生命については新商品の堅調な販売状況を踏まえ、資本増強が必要と判断し、T&Dホールディングスが銀行借入れにより400億円を調達しました。
- ・大同生命・太陽生命においては、両社の資本水準は経営の安定性・健全性の観点から問題のない水準でしたが、金融情勢は不透明な状況が続いていたため、競争優位性を確実に維持するために資本調達が必要であると判断し、資本増強を実施しました。
- ・調達方法については、コアの自己資本の増強という観点から公募増資が望ましいと考えましたが、希薄化や公募増資による調達可能金額、資本の質と資本効率のバランス等を勘案した結果、公募増資と銀行借入れを組み合わせることとしました。
- ・結果として、公募増資により580億円、銀行借入れにより620億円の計1,200億円を調達し、大同生命に700億円、太陽生命に500億円を注入しました。

2010年3月期グループ経営方針

資産運用

- 従来どおりの資産運用方針(円金利資産中心の運用)を継続
- リスク性資産のエクスポージャーは当面抑制

資本・健全性

- 内部留保の積み増しを進め、コア自己資本の充実を図る
- 競争優位性を維持するため、高い健全性を確保する

営業政策

- ビジネスモデルの強さを活かし、2010年3月期業績見通しの達成を目指す
- 良質契約の獲得により、中長期的な契約価値の向上を図る

T&D保険グループの基礎固め

経済環境、金融市場が回復した際に確かな成長戦略がとれるよう、資産ポートフォリオの再構築、コア自己資本の充実、強固なビジネスモデル(競争優位性)の維持に努める

・ここからは、今期のグループ経営方針についてご説明します。

・昨年度は金融市場が大きく混乱し経済環境も急速に悪化するなど、外部環境が変化したことにより、当グループも一定の影響を受けました。今期は次の点を最優先のテーマとしてグループを挙げて取り組み、T&D保険グループの基礎固めに注力したいと考えています。

・まず資産運用については、従来どおりの運用基本方針を継続します。また、金融市場の混乱をふまえリスク性資産のエクスポージャーは当面抑制します。一方で、資産の安全性、流動性にいっそう留意した上で、資産内容の質を高め、一定の収益を確保できるポートフォリオの再構築を目指します。

・また、自己資本の充実により財務基盤をいっそう強固なものとすることで、競争優位性、独自性のあるビジネスモデルの強さを維持し、確かな成長軌道を確保するための1年といたします。

2010年3月期方針：資産運用



	大同生命	太陽生命
国内債券	金利上昇に応じてデュレーションの長期化を検討	金利上昇に応じてデュレーションの長期化を検討
外国債券	現状の資産構成比を大きく変更しない	金利・為替動向に応じて対応
国内株式	現状の資産構成比を大きく変更しない	リスク抑制的なスタンスを継続し、相場動向に応じて対応
外国株式		
オルタナティブ投資	<ul style="list-style-type: none"> ・足もとの運用環境やパフォーマンスを踏まえ、慎重な投資スタンス ・プライベート・エクイティは、当面は慎重に対応、ヘッジファンドは、微減の見込み 	<ul style="list-style-type: none"> ・足もとの運用環境やパフォーマンスを踏まえ、慎重な投資スタンス ・新規投資見送り。改善の見込みが薄いファンドは解約・入替を進める。

- ・大同生命、太陽生命の資産運用方針について、それぞれご説明します。
- ・国内債券については、大同生命・太陽生命ともに金利上昇に応じて長期化を図ります。
- ・外国債券については、大同生命は現状の構成比を大きく変更しません。太陽生命は金利と為替の動向に応じて機動的に対応する方針です。
- ・国内株式、外国株式については、大同生命は現状の構成比を大きく変更しません。太陽生命は前年度に大幅な削減を実施したリスク抑制的なスタンスを継続し、相場動向に応じた対応を実施します。
- ・オルタナティブ投資については、大同生命・太陽生命ともに慎重な投資スタンスをとります。

2010年3月期方針：営業政策

- ビジネスモデルの強みを活かし、2010年3月期の契約業績見通しの確実な達成を目指す
- 良質契約の獲得により、中長期的な契約価値の向上を図る

T&D保険グループ のビジネスモデル

- 生保3社の独自性のあるビジネスモデルは強固で、市場での競争優位性を維持
- 異なるビジネスモデルを持つ生保3社を擁し、グループとして安定した契約業績を獲得

大同生命

税理士代理店

2009/03 約 **11,500**店



2008/03 約 **11,300**店

2009年3月期の契約業績は落ち込んだものの、税理士代理店数は増加

太陽生命

営業職員

2009/03 **8,226**名



2008/03 **7,619**名

陣容拡大とともに、13ヶ月目定着率は50.7% 57.5%、1人当たり新契約高も21,056万円 27,829万円に上昇

T&Dフィナンシャル生命

金融機関代理店

2009/03 **63**店



2008/03 **59**店

メガバンク・信託銀行・地方銀行・大手証券会社など、有力な金融機関が代理店に

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

・次に営業政策についてご説明します。

・T&D保険グループのビジネスモデルの強みは、生保3社が独自のビジネスモデルを持ち、市場での競争優位性を維持していることです。また、異なるビジネスモデルを持つ生保3社を擁することから、グループとして安定した契約業績を獲得することが可能です。

・2009年3月期は、グループの新契約高・保有契約高が減少しましたが、生保3社の販売チャネルは拡大しており、事業環境が回復した際には新契約高・保有契約高の増大に貢献すると考えています。

・大同生命では契約業績は落ち込んだものの、税理士代理店数は増加し、提携団体との強固な協力関係も維持しています。

・太陽生命では、2009年3月末時点で営業職員数が8,226名となり、定着率、営業職員1人当たりの生産性も上昇するなど、営業職員チャネルは質・量の両面で強化されています。

・T&Dフィナンシャル生命では、金融機関代理店数が増加しました。メガバンク、信託銀行、有力地銀、大手証券会社など販売力のある金融機関が新たに代理店となり、窓販市場でのプレゼンス拡大が期待できます。

・このように、生保3社のビジネスモデルは強固であり、業績見通しの確実な達成を目指すとともに、良質契約の獲得により中長期的な契約価値の向上を図ります。

参考資料

✓ 損益計算書(要約)	42
✓ 貸借対照表(要約)	46
✓ 一般勘定資産構成比	50
✓ 外国証券・その他の証券の内訳	52
✓ 外国証券(公社債)の内訳	53
✓ 有価証券評価損の内訳	54
✓ インカム資産の状況	55
✓ オルタナティブ投資の状況	56
✓ 証券化商品への投資状況	57
✓ 一般勘定資産の差損益	58
✓ 基礎利益・逆ざや・平均予定利率	60
✓ 配当区分別構成比	62
✓ 健全性指標明細	64
✓ 主要業績の推移	67

・参考資料

損益計算書(要約):大同生命単体



(億円)

	2009年 3月期	2008年 3月期	増減額
経常収益	12,505	11,363	▲ 1,141
保険料等収入	8,119	8,433	▲ 313
うち個人定期保険	5,430	5,495	▲ 64
資産運用収益	1,723	2,057	▲ 333
うち利息及び配当金等収入	1,220	1,447	▲ 227
うち金銭の信託運用益	-	139	▲ 139
うち有価証券売却益	202	149	▲ 53
うち金融派生商品収益	274	293	▲ 18
その他経常収益	2,661	872	1,789
うち責任準備金戻入額	2,573	807	1,766
経常費用	13,438	10,316	3,121
保険金等支払金	9,242	8,043	1,198
責任準備金等繰入額	7	29	▲ 21
資産運用費用	2,884	946	1,938
うち金銭の信託運用損	49	-	49
うち売買目的有価証券運用損	300	251	48
うち有価証券売却損	707	100	606
うち有価証券評価損	369	194	175
うちその他運用費用	1,244	138	1,106
うち特別勘定資産運用損	134	162	▲ 28
事業費	1,144	1,141	2
その他経常費用	159	156	3
経常利益	▲ 933	1,046	▲ 1,979
特別損益	316	▲ 102	418
契約者配当準備金繰入額	62	312	▲ 250
税引前当期純利益	▲ 679	631	▲ 1,311
法人税等(含む調整額)	▲ 158	327	▲ 485
当期純利益	▲ 520	304	▲ 825

うち団体年金: 117億円

主な内訳
 ・プライベート・エクイティの分配金: 152億円
 ・国内外公社債利息: 43億円
 ・投資信託の分配金: 30億円

・為替予約: 81億円(前期比 194億円)
 ・株式先物: 183億円(前期比+158億円)

主な内訳
 ・個人定期保険 解約返戻金:+368億円
 ・団体年金 保険金:+320億円
 ・団体年金 その他返戻金:+432億円
 ・団体年金 解約返戻金:+156億円

主な内訳(前期比)
 ・その他証券(投信): 575億円(+519億円)
 ・外国証券: 66億円(+24億円)
 ・国内株式: 62億円(+59億円)

含み損の投信を解約したことによる

主な内訳(前同比)
 ・国内株式: 117億円(34億円)
 ・外国証券: 109億円(+99億円)
 ・その他の証券: 107億円(+87億円)

うち価格変動準備金戻入額 315億円

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

・損益計算書(要約):大同生命単体

損益計算書(要約): 太陽生命単体



	2009年 3月期	2008年 3月期	増減額	
(億円)				
経常収益	11,121	10,003	▲ 1,118	
保険料等収入	5,966	6,357	▲ 391	うち団体年金: 139億円
うち個人保険(個人年金含む)	5,086	5,320	▲ 234	
資産運用収益	2,326	2,296	30	主な内訳 ・円建債券利息: +25億円 ・外貨建債券利息: 15億円 ・国内株式配当金: 29億円 ・国内投信等分配金: 26億円
うち利息及び配当金等収入	1,333	1,420	▲ 86	
うち有価証券売却益	979	872	106	主な内訳(前期比) ・国債等債券: 392億円(+361億円) ・株式等: 440億円(-38億円) ・外国証券: 146億円(-216億円)
その他経常収益	2,828	1,349	1,479	
うち責任準備金戻入額	2,401	990	1,410	主な内訳 ・個人年金 年金+114億円 ・団体年金 その他返戻金: +306億円
経常費用	11,758	9,433	2,325	
保険金等支払金	8,037	7,471	566	主な内訳(前年同期比) ・株式等: 1,013億円(+701億円) ・外国証券: 890億円(+761億円)
責任準備金等繰入額	1	1	▲ 0	
資産運用費用	2,418	761	1,657	主な内訳 ・個人年金 年金+114億円 ・団体年金 その他返戻金: +306億円
うち有価証券売却損	1,931	519	1,411	
うち有価証券評価損	235	77	158	主な内訳 ・株式等: 187億円(+129億円) ・外国証券: 36億円(+17億円)
うち金融派生商品費用	162	70	91	
事業費	798	770	27	うち為替予約関連: 152億円(前年同期比+41億円)
その他経常費用	503	428	75	
経常利益	▲ 636	570	▲ 1,207	うち価格変動準備金戻入額532億円
特別損益	535	▲ 209	745	
契約者配当準備金繰入額	27	139	▲ 112	
税引前当期純利益	▲ 128	220	▲ 349	
法人税等(含む調整額)	27	100	▲ 73	
当期純利益	▲ 155	120	▲ 276	

・損益計算書(要約): 太陽生命単体

損益計算書(要約): T&Dフィナンシャル生命単体



	(億円)		
	2009年 3月期	2008年 3月期	増減額
経常収益	2,853	1,804	1,048
保険料等収入	2,457	1,340	1,116
うち変額年金	2,182	1,037	1,145
資産運用収益	286	198	88
うち利息及び配当金等収入	41	41	▲ 0
うち金銭の信託運用益	244	153	91
その他経常収益	109	265	▲ 156
うち責任準備金戻入額	-	167	▲ 167
経常費用	3,121	1,901	1,220
保険金等支払金	863	955	▲ 92
責任準備金等繰入額	1,035	1	1,034
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額	479	233	245
資産運用費用	1,031	779	252
うち有価証券売却損	3	1	1
うち有価証券評価損	2	0	2
うち特別勘定資産運用損	1,025	776	249
事業費	160	136	24
その他経常費用	30	28	1
経常利益	▲ 268	▲ 96	▲ 171
特別損益	▲ 12	▲ 0	▲ 12
契約者配当準備金繰入額 (は契約者配当準備金戻入額)	▲ 0	1	▲ 1
税引前当期純利益	▲ 280	▲ 98	▲ 182
法人税等(含む調整額)	▲ 82	▲ 29	▲ 53
当期純利益	▲ 198	▲ 69	▲ 128

最低保証リスクに対するオプションによるヘッジ損益。運用損益の悪化による繰入(389億円)との差額(145億円)の主な要因は、ヘッジ対象外のファンドの損益悪化

うち、
・運用損益の悪化による繰入: 389億円
・新契約の獲得による繰入: 89億円

・損益計算書(要約): T&Dフィナンシャル生命単体

損益計算書(要約): T&Dアセットマネジメント単体



(百万円)

	2009年 3月期	2008年 3月期	増減額
営業収益	5,499	7,147	▲ 1,647
委託者報酬	3,527	4,526	▲ 999
運用受託報酬等	1,964	2,620	▲ 656
その他営業収益	7	-	7
営業費用	2,422	2,818	▲ 396
支払手数料	1,250	1,496	▲ 245
その他	1,171	1,321	▲ 150
一般管理費	2,897	2,668	228
営業利益	180	1,660	▲ 1,479
営業外収益	11	14	▲ 2
営業外費用	54	3	50
経常利益	138	1,671	▲ 1,533
特別損益	▲ 1	▲ 2	0
税引前当期純利益	136	1,669	▲ 1,532
法人税等(含む調整額)	63	698	▲ 634
当期純利益	72	971	▲ 898

・損益計算書(要約): T & Dアセットマネジメント単体

貸借対照表(要約):大同生命単体



(億円)				(億円)			
	2009年 3月期	2008年 3月期	増減額		2009年 3月期	2008年 3月期	増減額
資産の部				負債の部			
現預金・コール	4,890	2,972	1,917	保険契約準備金	51,068	53,921	▲ 2,852
買入金銭債権	2,978	2,700	277	責任準備金	49,591	52,165	▲ 2,573
金銭の信託	135	1,046	▲ 911	危険準備金	532	826	▲ 294
有価証券	35,212	41,596	▲ 6,383	価格変動準備金	420	735	▲ 315
公社債	24,019	23,940	78	負債の部合計	52,852	56,734	▲ 3,882
株式	2,628	3,756	▲ 1,128	純資産の部			
外国証券	5,194	6,534	▲ 1,339	株主資本	2,715	2,618	97
その他の証券	3,369	7,363	▲ 3,994	資本金	1,100	750	350
貸付金	8,017	8,903	▲ 886	資本剰余金	350	0	350
有形固定資産	1,407	1,404	2	利益剰余金	1,265	1,867	▲ 602
無形固定資産	74	86	▲ 11	評価・換算差額等	▲ 856	1,125	▲ 1,982
その他資産	751	1,315	▲ 564	その他有価証券評価差額金	▲ 860	1,118	▲ 1,979
繰延税金資産	1,237	441	795	純資産の部合計	1,859	3,744	▲ 1,884
貸倒引当金	▲ 8	▲ 10	1	負債及び純資産の部合計	54,711	60,478	▲ 5,767
資産の部合計	54,711	60,478	▲ 5,767				

主な減少要因
 ・株式:時価の下落
 ・外国証券:外国公社債売却、ヘッジファンドの解約・時価下落
 ・プライベート・エクイティ・ファンドの時価下落
 ・その他の証券:投信の解約・売却、時価の下落

2009年3月に増資(700億円)

・貸借対照表(要約):大同生命単体

貸借対照表(要約): 太陽生命単体



(億円)				(億円)			
	2009年 3月期	2008年 3月期	増減額		2009年 3月期	2008年 3月期	増減額
資産の部				負債の部			
現預金・コール	1,262	1,598	▲ 336	保険契約準備金	54,773	57,311	▲ 2,537
買入金銭債権	1,453	1,605	▲ 151	責任準備金	54,118	56,520	▲ 2,401
有価証券	36,756	41,524	▲ 4,767	危険準備金	768	1,019	▲ 250
公社債	25,725	25,751	▲ 25	その他負債	904	711	193
株式	2,928	6,385	▲ 3,457	借入金	350	350	-
外国証券	8,055	8,672	▲ 616	価格変動準備金	100	632	▲ 532
その他の証券	47	715	▲ 668	負債の部合計	56,254	59,312	▲ 3,058
貸付金	14,938	14,818	119	純資産の部			
有形固定資産	1,624	1,622	2	株主資本	1,926	1,663	263
無形固定資産	124	104	20	資本金	625	375	250
その他資産	710	494	216	資本剰余金	625	375	250
繰延税金資産	855	112	742	利益剰余金	676	913	▲ 236
貸倒引当金	▲ 16	▲ 25	9	評価・換算差額等	▲ 469	879	▲ 1,349
資産の部合計	57,711	61,855	▲ 4,143	その他有価証券評価差額金	9	1,361	▲ 1,352
				土地再評価差額金	▲ 478	▲ 480	2
				純資産の部合計	1,457	2,543	▲ 1,085
				負債及び純資産の部合計	57,711	61,855	▲ 4,143

永久劣後ローン

健全性確保の観点からの内外株式の売却等

2009年3月に増資(500億円)

・貸借対照表(要約): 太陽生命単体

貸借対照表(要約): T&Dフィナンシャル生命単体



	(億円)			(億円)			
	2009年 3月期	2008年 3月期	増減額		2009年 3月期	2008年 3月期	増減額
資産の部				負債の部			
現預金・コール	430	501	▲ 70	保険契約準備金	11,130	10,115	1,015
金銭の信託	646	301	344	責任準備金	11,076	10,041	1,035
有価証券	10,244	9,348	895	危険準備金	175	135	39
公社債	3,785	3,601	183	価格変動準備金	4	4	0
株式	6	9	▲ 3	負債の部合計	11,240	10,220	1,020
外国証券	17	20	▲ 3	純資産の部			
その他の証券	6,435	5,717	718	株主資本	482	281	201
貸付金	66	72	▲ 6	資本金	560	360	200
有形固定資産	2	3	▲ 0	資本剰余金	460	260	200
無形固定資産	20	33	▲ 12	利益剰余金	▲ 537	▲ 338	▲ 198
その他資産	34	65	▲ 30	評価・換算差額等	▲ 12	▲ 11	▲ 0
繰延税金資産	165	87	77	その他有価証券評価差額金	▲ 12	▲ 11	▲ 0
貸倒引当金	▲ 0	▲ 0	0	純資産の部合計	470	269	201
資産の部合計	11,711	10,489	1,221	負債及び純資産の部合計	11,711	10,489	1,221

変額年金の保有契約高の増加により
投資信託が増加

2008年12月に増資(400億円)

・貸借対照表(要約): T & Dフィナンシャル生命単体

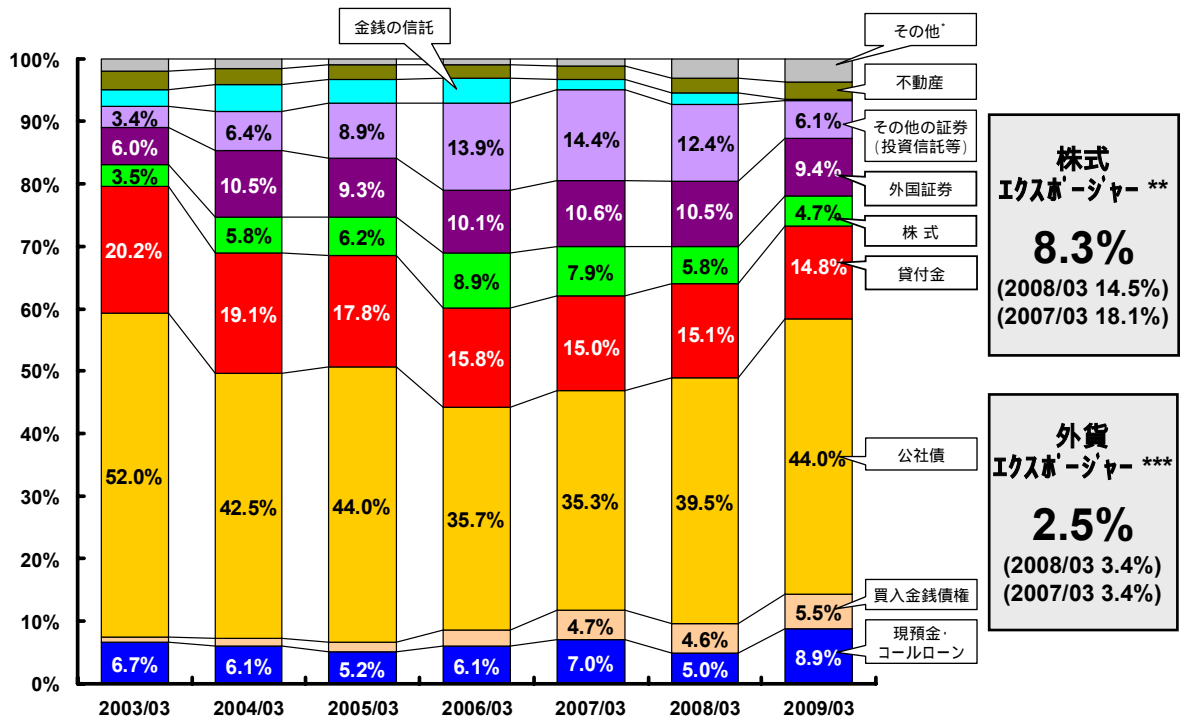
貸借対照表(要約): T&Dアセットマネジメント単体



(百万円)				(百万円)			
	2009年 3月期	2008年 3月期	増減額		2009年 3月期	2008年 3月期	増減額
資産の部				負債の部			
流動資産	7,166	8,461	▲ 1,295	流動負債	698	1,572	▲ 873
預金	5,829	6,725	▲ 895	未払金	193	673	▲ 479
未収委託者報酬	428	736	▲ 308	未払費用	202	230	▲ 28
未収運用受託報酬等	354	697	▲ 342	その他	303	669	▲ 366
その他	553	302	251	固定負債	261	207	53
固定資産	937	874	62	退職給付引当金	260	207	52
有形固定資産	176	169	6	その他	1	-	1
無形固定資産	59	33	25	負債合計	960	1,780	▲ 820
投資その他の資産	701	671	30	純資産の部			
資産合計	8,103	9,335	▲ 1,232	株主資本	7,142	7,555	▲ 412
				資本金	1,100	1,100	-
				資本剰余金	277	277	-
				利益剰余金	5,765	6,177	▲ 412
				評価・換算差額等	▲ 0	-	▲ 0
				純資産の部合計	7,142	7,555	▲ 412
				負債及び純資産の部合計	8,103	9,335	▲ 1,232

・貸借対照表(要約): T & Dアセットマネジメント単体

一般勘定資産構成比: 大同生命



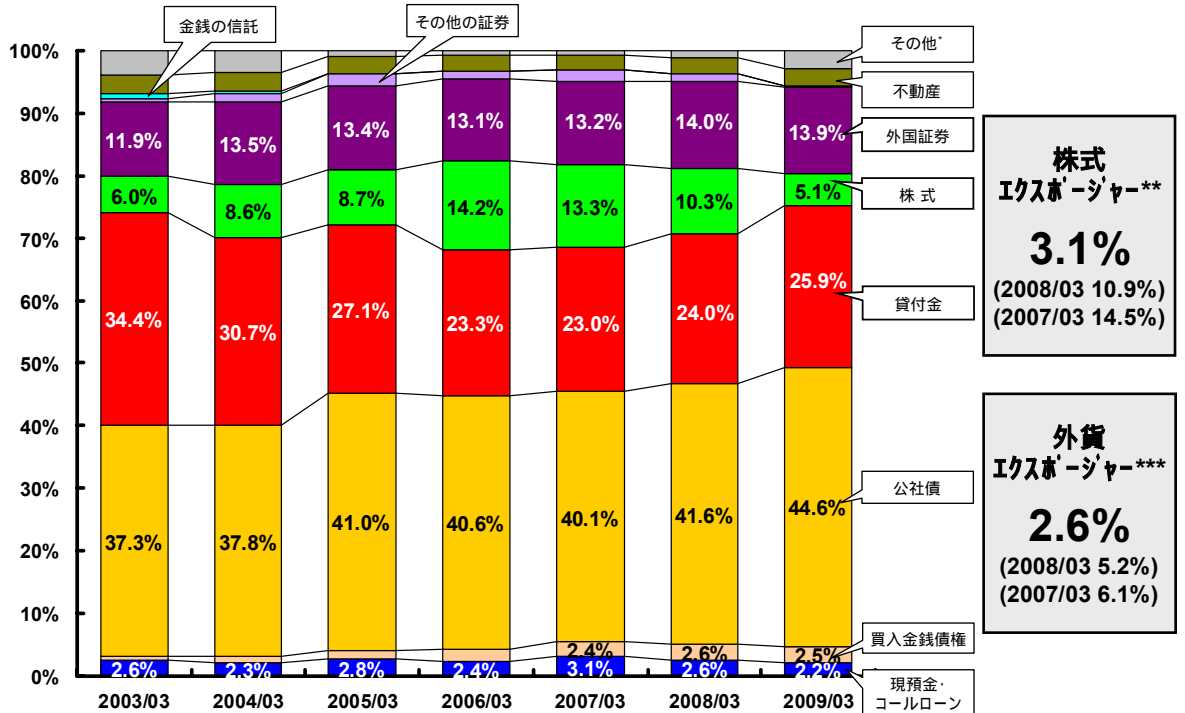
**株式
エクスポージャー ****
8.3%
(2008/03 14.5%)
(2007/03 18.1%)

**外貨
エクスポージャー *****
2.5%
(2008/03 3.4%)
(2007/03 3.4%)

* その他資産:繰延税金資産、有形固定資産、無形固定資産など ** 株式先物、投信、金銭の信託内の株式等を含めた実質的な株式エクスポージャー
***為替ヘッジ等を含めた実質的な外貨エクスポージャー

一般勘定資産構成比: 大同生命

一般勘定資産構成比：太陽生命



**株式
エクスポージャー****
3.1%
(2008/03 10.9%)
(2007/03 14.5%)

**外貨
エクスポージャー*****
2.6%
(2008/03 5.2%)
(2007/03 6.1%)

* その他資産：繰延税金資産、有形固定資産、無形固定資産など ** ヘッジ、株式投信等を含めた実質的な株式エクスポージャー
*** 為替ヘッジ等を反映した実質的な外貨エクスポージャー

一般勘定資産構成比：太陽生命

外国証券・その他の証券の内訳



(億円)

	大同生命			太陽生命		
	2009年 3月期	2008年 3月期	増減	2009年 3月期	2008年 3月期	増減
外国証券	5,125	6,213	▲ 1,087	8,041	8,652	▲ 611
外国公社債	1,587	2,050	▲ 462	5,759	5,606	153
外国株式等	3,537	4,162	▲ 624	2,281	3,046	▲ 765
うちヘッジファンド	933	1,597	▲ 663	617	490	126
うちプライベートエクイティ	1,137	1,381	▲ 243	140	123	17
その他の証券	3,313	7,317	▲ 4,003	47	715	▲ 668
国内投資信託	3,054	6,976	▲ 3,921	9	664	▲ 655
うちREIT	33	50	▲ 16	-	35	▲ 35
その他	258	341	▲ 82	37	51	▲ 13
うちプライベートエクイティ	143	224	▲ 81	25	29	▲ 4

*外国株式等のうち、ヘッジファンド、プライベートエクイティを除いた内訳は、大同生命・太陽生命ともに主に邦銀の外国籍SPCが発行する優先出資証券です。

・外国証券・その他の証券の内訳

外国証券(公社債)の内訳

(億円)

	大同生命 (2009年3月期)		太陽生命 (2009年3月期)	
外国国債	258	16.3%	5,079	88.2%
うちBBB格以上	258	16.3%	5,079	88.2%
国際機関債	30	1.9%	178	3.1%
うちBBB格以上	30	1.9%	178	3.1%
政府関係機関債・公企業債	14	0.9%	163	2.8%
うちBBB格以上	14	0.9%	163	2.8%
外国地方債	30	1.9%	153	2.7%
うちBBB格以上	30	1.9%	153	2.7%
外国事業債	1,254	79.0%	185	3.2%
うちBBB格以上	1,250	78.8%	185	3.2%
合計	1,587	100.0%	5,759	100.0%

* 「BBB格以上」は各社の社内格付けに基づいて分類しています

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

・外国証券(公社債)の内訳

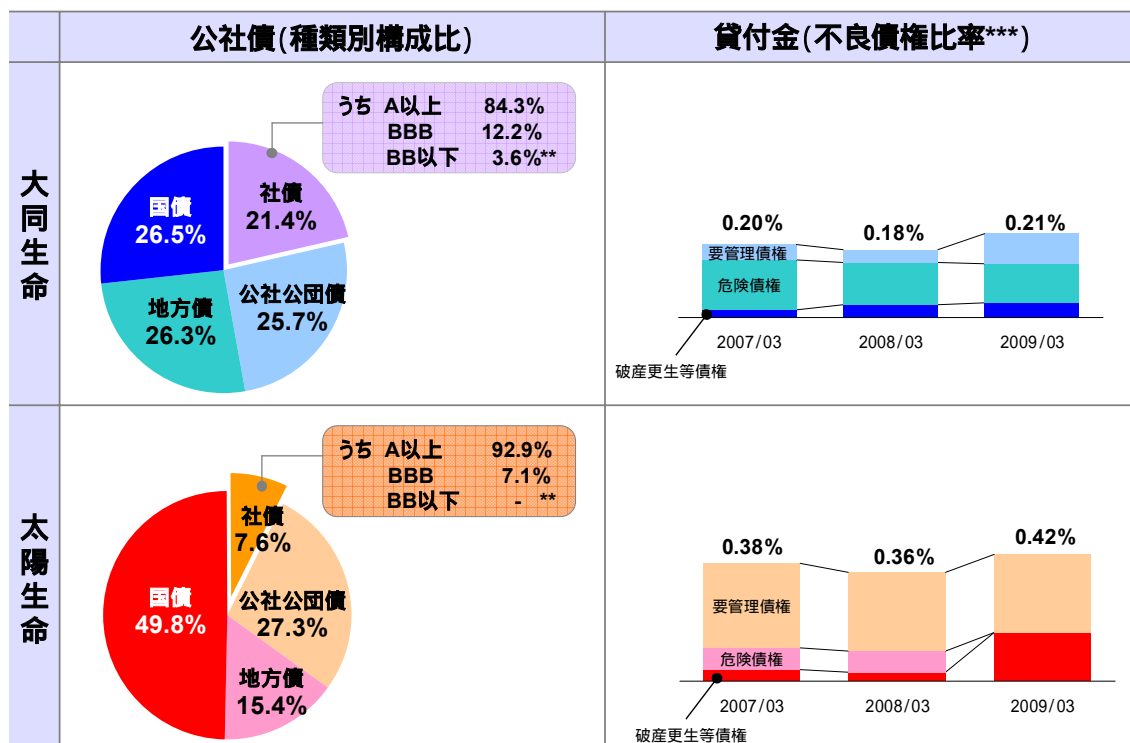
有価証券評価損の内訳

(億円)

	大同生命 (2009年3月期)	太陽生命 (2009年3月期)
公社債	34	-
株式	117	182
外国証券	109	36
外国公社債	30	16
外国株式等	79	20
うちプライベートエクイティ	24	-
その他の証券	107	16
国内投資信託	19	4
REIT	-	-
その他	88	12
プライベートエクイティ	79	-
合計	369	235

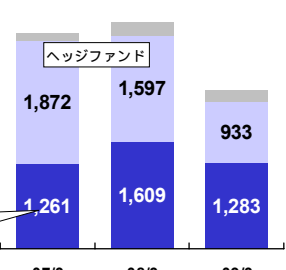
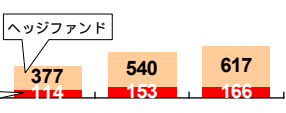
・有価証券評価損の内訳

インカム資産の状況



・インカム資産の状況

オルタナティブ投資の状況

	資産残高	ヘッジファンド	プライベート・エクイティ*
大同生命	(億円) 	(戦略別構成比*) ・株式ロング/ショート 38% ・イベント・ドリブン 22% ・アービトラージ 13% ・マルチストラテジー 12% ・クレジット 9% ・グローバル・マクロ 3% ・キャッシュ 3%	(地域別構成比*) ・米国 33% ・欧州 21% ・日本 16% ・FoF 16% ・グローバル 8% ・アジア/エマージング 7%
	(億円) 	(戦略別構成比*) ・株式ロング/ショート 23% ・グローバル・マクロ 15% ・クレジット・債券 10% ・マルチストラテジー 10% ・イベント・ドリブン 7% ・その他 35%	(地域別構成比*) ・FoF 36% ・北米 25% ・欧州 23% ・日本 15%

*2009年3月末時点

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

・オルタナティブ投資の状況

証券化商品への投資状況

(億円)

	大同生命			太陽生命		
	時価	差損益	実現損益 ^{****}	時価	差損益	実現損益 ^{****}
海外投資	1	-	▲ 38	-	-	-
うち債務担保証券 (CDO)	1	-	▲ 38	-	-	-
国内投資 …	4,607	▲ 63	110	3,249	▲ 12	61
特別目的事業体 (SPEs) 一般	-	-	-	-	-	-
債務担保証券 (CDO)	16	▲ 0	0	86	▲ 4	1
その他のサブプライム・Alt-Aエクスポージャー	-	-	-	-	-	-
商業用不動産担保証券 (CMBS)	366	▲ 23	10	81	▲ 0	1
レバレッジド・ファイナンス	400	-	22	-	-	-
住宅ローン債権担保証券 (RMBS) …	3,336	▲ 18	71	2,097	▲ 6	40
クレジットリンクノート/ローン	281	▲ 18	2	709	-	9
その他	206	▲ 2	4	275	▲ 0	8

* 2009年3月末時点

** CLOエクイティで、海外の企業向け貸付金等が裏付資産です。

*** 裏付資産が全て日本国内の貸付金等であり、サブプライムローンに関連するものではありません。

**** 住宅金融支援機構および国内金融機関の国内の住宅ローンを裏付けとしたものです。

***** 実現損益は、当年度の売却損益の他に利息及び配当金等収入を含んでいます。

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

証券化商品への投資状況

一般勘定資産の差損益:大同生命



(億円)

	満期保有目的債券 の含み損益		その他有価証券 の評価差損益		合計		
	2009年 3月期	2008年 3月期	2009年 3月期	2008年 3月期	2009年 3月期	2008年 3月期	増減額
合計	▲ 0	▲ 0	▲ 525	1,639	▲ 526	1,638	▲ 2,164
公社債	▲ 0	▲ 0	71	307	70	307	▲ 236
株式	-	-	359	1,147	359	1,147	▲ 787
外国証券	-	-	▲ 185	▲ 38	▲ 185	▲ 38	▲ 146
公社債	-	-	▲ 93	▲ 12	▲ 93	▲ 12	▲ 80
株式等	-	-	▲ 91	▲ 25	▲ 91	▲ 25	▲ 66
その他の証券	-	-	▲ 768	164	▲ 768	164	▲ 932
買入金銭債権	-	-	▲ 3	54	▲ 3	54	▲ 58
譲渡性預金	-	-	-	-	-	-	-
金銭の信託	-	-	-	3	-	3	▲ 3
土地等					303	352	▲ 48

* 有価証券のうち、時価のあるものを対象としています

** 土地等の差損益は、原則として鑑定評価額、重要性の低い物件等については公示価格をもとに算出しています

・一般勘定資産の差損益:大同生命

一般勘定資産の差損益: 太陽生命



(億円)

	満期保有目的債券 の含み損益		責任準備金対応 債券の含み損益		その他有価証券 の評価差損益		合計		
	2009年 3月期	2008年 3月期	2009年 3月期	2008年 3月期	2009年 3月期	2008年 3月期	2009年 3月期	2008年 3月期	増減額
合計	25	44	169	492	46	2,129	241	2,666	▲ 2,425
公社債	20	14	169	492	194	124	384	631	▲ 246
株式	-	-	-	-	86	2,105	86	2,105	▲ 2,018
外国証券	-	-	-	-	▲ 232	7	▲ 232	7	▲ 239
公社債	-	-	-	-	▲ 41	73	▲ 41	73	▲ 115
株式等	-	-	-	-	▲ 191	▲ 66	▲ 191	▲ 66	▲ 124
その他の証券	-	-	-	-	▲ 1	▲ 110	▲ 1	▲ 110	109
買入金銭債権	4	30	-	-	▲ 1	2	3	32	▲ 29
譲渡性預金	-	0	-	-	-	-	-	0	▲ 0
金銭の信託	-	-	-	-	-	-	-	-	-
土地等							223	358	▲ 134

* 有価証券のうち、時価のあるものを対象としています

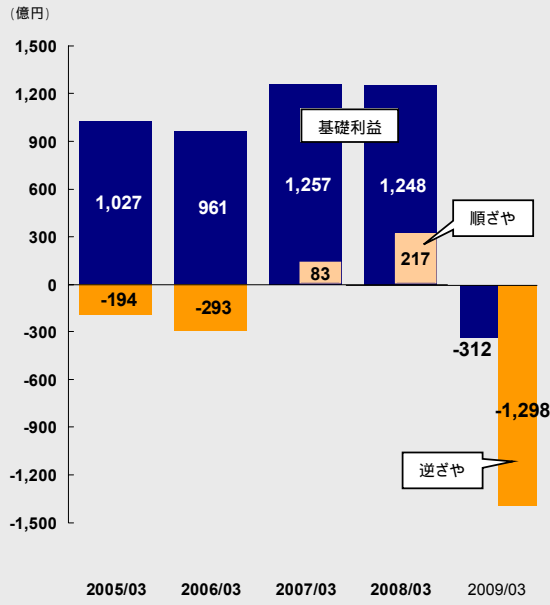
**太陽生命の土地等の差損益は、原則として鑑定評価額(重要度の低い物件等については公示価格等)をもとに算出しています

・一般勘定資産の差損益: 太陽生命

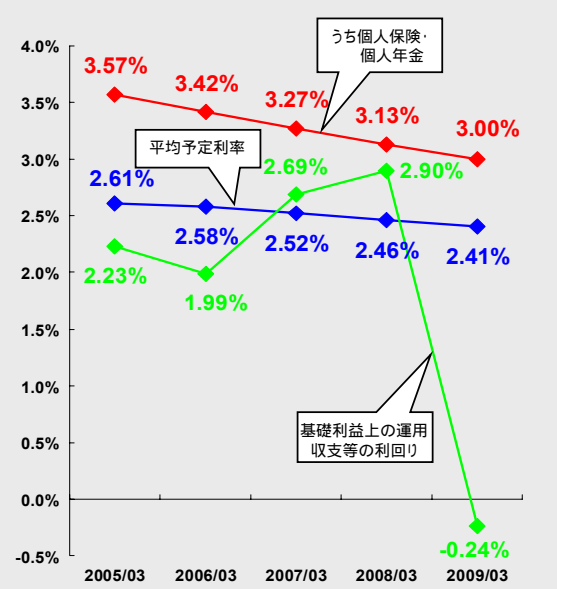
基礎利益・逆ざや・平均予定利率:大同生命



基礎利益・逆ざや

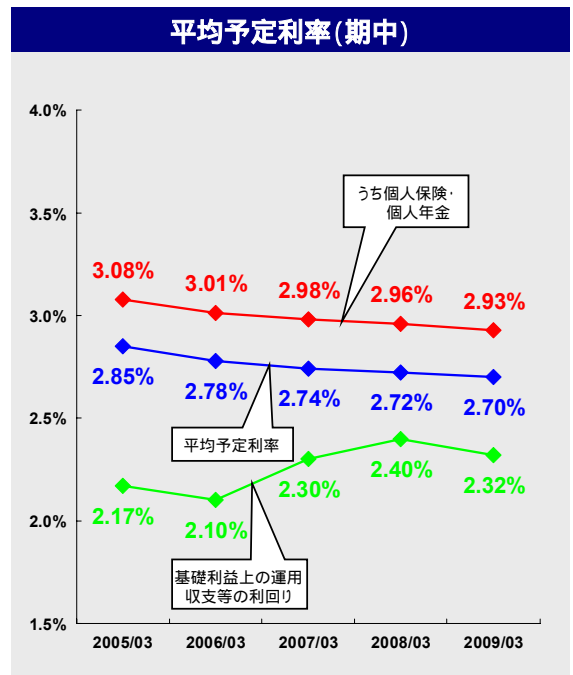
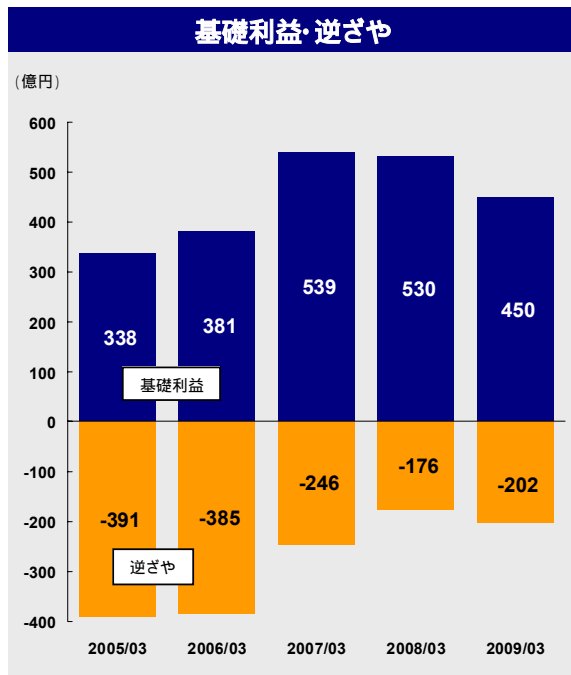


平均予定利率(期中)



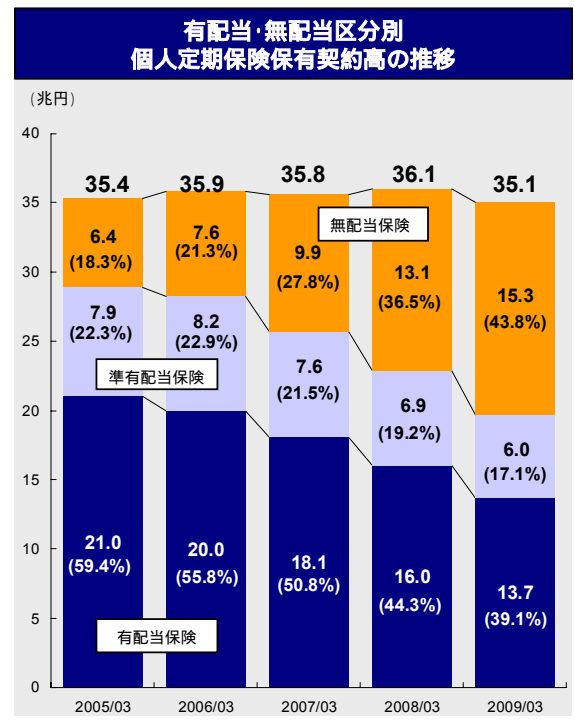
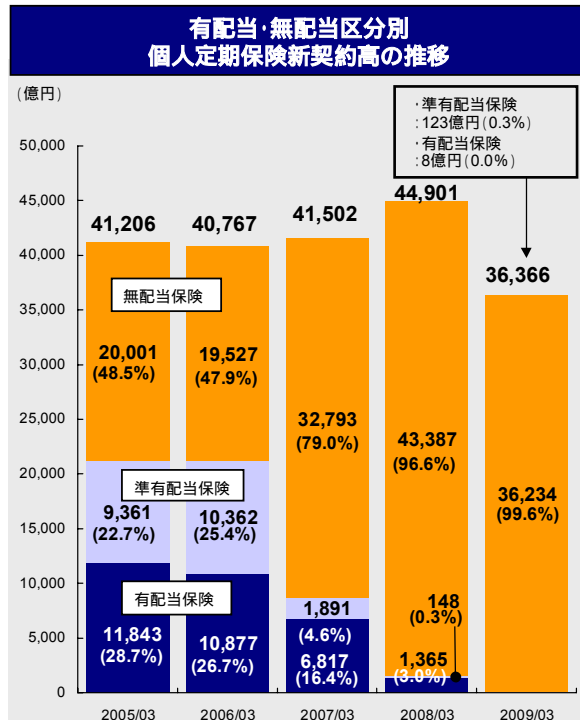
・基礎利益・逆ざや・平均予定利率:大同生命

基礎利益・逆ざや・平均予定利率:太陽生命



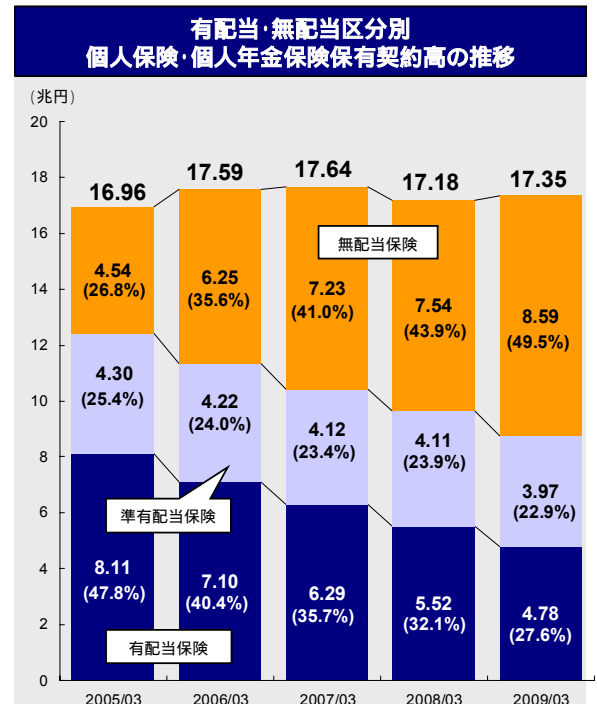
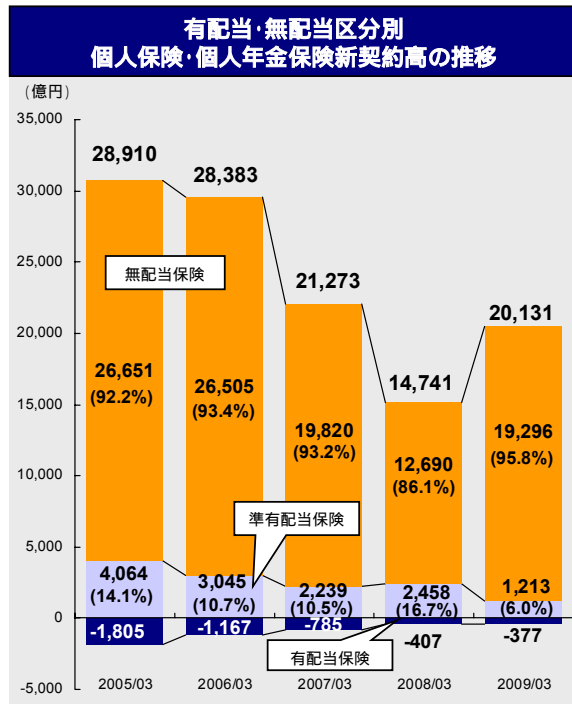
・基礎利益・逆ざや・平均予定利率:太陽生命

配当区分別構成比: 大同生命



・配当区分別構成比: 大同生命

配当区分別構成比: 太陽生命



* 上表は、主契約・特約単位別に区分をしたものです。新契約高には、転換による純増加を含みます。

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

・配当区分別構成比: 太陽生命

健全性指標明細:大同生命



(百万円)

項目	EEV上の 修正純資産	実質純資産	ソルベンシー・ マージン	
純資産の部(除く評価・換算差額等)	271,592	271,592	271,592	
不動産圧縮積立金	-	-	▲ 1,559	
社外流出予定額	-	-	▲ 6,162	株主配当金
その他有価証券評価差額金	▲ 54,469	▲ 86,052	▲ 86,052	税引後(不動産ファンドを含む) 税引前 税引前の90% (マイナスの場合100%)
貸付金の含み損益	6,092	-	-	税引後
ヘッジ会計適用に伴う差損益	403	403	-	税引後
土地の含み損益	13,254	30,373	25,817	税引後(建物の含み損益を含む) 税引前 税引前の85%
価格変動準備金	42,020	42,020	42,020	
危険準備金	53,220	53,220	53,220	
配当準備金中の未割当額	7,176	7,176	7,176	
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	-	129,268	129,268	
将来利益	-	-	3,113	
負債中内部留保に係る税効果	▲ 36,983	-	-	(価格変動準備金+危険準備金+配当準備金中の未割当 額)×税率(36.11%)
税効果相当額	-	-	59,239	
一般貸倒引当金	82	-	129	税引後 税引前
負債性資本調達手段等	-	-	-	劣後ローン等取り入れ時には へのみカウント
負債性資本の含み損益	-	-	-	
有価証券含み損益(満期保有等)	1,985	▲ 61	-	税引後(子会社・関連会社株式の含み損益を含む) 税引前
合計	304,375	447,941	497,804	

64

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

・健全性指標明細:大同生命

健全性指標明細:太陽生命



(百万円)

項目	EEV上の修正純資産	実質純資産	ソルベンシー・マージン	
純資産の部(除く評価・換算差額)	192,685	192,685	192,685	
不動産圧縮積立金	-	-	-	
社外流出予定額	-	-	▲ 6,162	株主配当金
その他有価証券評価差額金	627	981	883	税引後 税引前 税引前の90%(マイナスの場合100%)
貸付金の含み損益	10,583	-	-	税引後
ヘッジ会計適用に伴う差損益	1,091	▲ 55	-	金利スワップの特例処理分を含む(税引後) 税引後
土地の含み損益	▲ 12,487	▲ 25,470	▲ 14,796	税引後(土地再評価に係る差損益、建物の差損益を含む) 税引前(B/S上の土地再評価差額金を含む) 税引前(土地再評価に係る差損益を含む)
価格変動準備金	10,000	10,000	10,000	
危険準備金	76,884	76,884	76,884	
配当準備金中の未割当額	11,231	11,231	11,231	
全期テメル式責任準備金相当額超過額	-	44,695	44,695	
将来利益	-	-	1,377	
負債中内部留保に係る税効果	▲ 35,420	-	-	(価格変動準備金+危険準備金+配当準備金中の未割当額) × 税率(36.1%)
税効果相当額	-	-	34,756	
一般貸倒引当金	930	-	1,455	税引後 税引前
負債性資本調達手段等	-	-	35,000	劣後ローン等取り入れ時には へのみカウント
負債性資本の含み損益	-	-	-	税引後
有価証券含み損益(責任準備金対応債券等)	13,881	19,472	-	税引後(子会社・関係会社株式の含み損益を含む) 税引前
合計	270,008	330,425	388,011	

65

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

・健全性指標明細:太陽生命

健全性指標明細：T&Dフィナンシャル生命



(百万円)

項目	EEV上の修正純資産	実質純資産	ソルベンシー・マージン	
純資産の部(除く評価・換算差額等)	48,297	48,297	48,297	
不動産圧縮積立金	-	-	-	
社外流出予定額	-	-	-	株主配当金
その他有価証券評価差額金	▲ 872	▲ 1,246	▲ 1,246	税引後 税引前 税引前の90%(マイナスの場合100%)
貸付金の含み損益	546	-	-	税引後
ヘッジ会計適用に伴う差損益	-	-	-	税引後
土地の含み損益	-	-	-	税引後 税引前
価格変動準備金	433	433	433	
危険準備金	17,508	17,508	17,508	
配当準備金中の未割当額	-	-	-	
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	-	17,918	27,921	変額年金に係る再保険貸を は除く、 は含む
将来利益	-	-	-	
負債中内部留保に係る税効果	▲ 5,382	-	-	(価格変動準備金+危険準備金+配当準備金中の未割当額)×法人税率分(30%)
税効果相当額	-	-	-	
一般貸倒引当金	2	-	4	税引後 税引前
負債性資本調達手段等	-	-	-	劣後ローン等取り入れ時には にのみカウント
負債性資本の含み損益	-	-	-	
有価証券含み損益(満期保有)	2,971	4,244	-	税引後 税引前
合計	63,504	87,155	92,917	

66

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

・健全性指標明細：T & Dフィナンシャル生命

主要業績の推移: 3社合算



■ 2001年3月期以前は大同生命・太陽生命の単体合算数値を、2002年3月期以降はT&D
 フィナンシャル生命を含めた3社単純合算数値を記載しています。

(億円)

(各年3月期)	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
保有契約高 ^{*1}	544,129	542,561	541,622	577,821	579,255	585,084	595,735	602,650	598,999	593,403	580,971
新契約高 ^{*1,2}	66,302	64,679	63,332	69,329	73,165	75,680	75,449	72,938	66,347	62,018	59,910
保険料等収入	24,275	22,921	21,696	21,137	20,047	18,785	17,989	19,023	18,115	16,131	16,543
解約失効高 ^{*1,2}	47,927	48,440	47,280	47,028	52,157	51,991	48,757	51,027	53,625	50,642	53,732
基礎利益	1,145	969	1,281	1,265	1,142	1,417	1,298	1,272	1,733	1,597	▲ 270
総資産	124,519	128,152	131,667	134,154	131,489	131,097	129,875	139,322	140,280	132,824	124,135

*1 個人保険、個人年金保険の合計 *2新契約高には転換純増加高を含む

・主要業績の推移: 3社合算

主要業績の推移: 大同生命

(億円)

(各年3月期)	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
保有契約高 *1	392,838	390,711	389,897	389,291	393,426	392,948	396,942	400,080	397,320	398,971	386,218
うち個人定期保険	338,650	339,408	341,096	343,090	348,046	349,641	354,796	359,336	358,181	361,753	351,055
新契約高 *2	47,732	46,203	44,014	45,704	46,735	43,097	43,542	42,927	43,278	46,342	37,616
うち個人定期保険	42,416	42,513	40,486	42,929	42,985	40,873	41,260	40,807	41,419	44,898	36,270
保険料等収入	11,928	11,369	10,722	10,594	9,894	9,282	8,848	8,711	8,652	8,433	8,119
うち個人保険保険料 *1	7,026	6,848	6,867	6,620	6,849	6,410	6,642	6,678	6,738	6,694	6,534
解約失効高 *1	38,765	38,451	35,269	34,932	32,906	33,177	30,265	30,400	36,158	35,500	39,924
解約失効率(%)	9.9%	9.8%	9.0%	9.0%	8.45%	8.44%	7.70%	7.66%	9.04%	8.93%	10.01%
基礎利益	-	-	1,142	1,098	887	1,073	1,027	961	1,257	1,248	▲ 312
営業職員数(人)	6,126	5,456	4,866	5,154	5,194	5,251	4,888	4,909	4,726	4,307	4,156
募集代理店数(店)	13,213	13,135	13,203	13,252	12,970	13,079	13,415	13,963	14,295	14,460	14,321
総資産	54,826	57,335	59,003	59,827	60,071	60,179	59,837	64,061	63,970	60,478	54,711

*1 個人保険、個人年金保険の合計 *2 新契約高には転換純増加高を含む

・主要業績の推移: 大同生命

主要業績の推移: 太陽生命



(億円)

(各年3月期)	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
保有契約高 ^{*1}	151,291	151,850	151,725	152,329	152,686	160,778	169,662	175,915	176,445	171,822	173,552
うち個人保険	101,867	100,340	99,588	102,173	105,002	115,779	127,065	135,720	138,203	134,683	137,617
新契約高 ^{*1,2}	18,570	18,476	19,317	21,881	21,754	28,142	28,910	28,383	21,273	14,741	20,131
うち個人保険	13,398	13,332	14,581	20,479	20,910	27,972	29,024	28,615	21,070	13,721	19,066
保険料等収入	12,346	11,552	10,973	10,190	8,879	7,941	7,881	8,230	7,055	6,357	5,966
うち個人保険・個人年金保険	10,950	9,724	9,148	8,378	7,621	6,802	6,466	6,092	5,765	5,320	5,086
解約失効高 ^{*1}	9,161	9,988	12,011	12,096	13,188	13,626	14,240	16,440	15,038	13,486	12,455
解約失効率 ^{*1}	6.06%	6.60%	7.91%	7.97%	8.66%	8.92%	8.86%	9.69%	8.55%	7.64%	7.25%
基礎利益	-	-	139	138	287	375	338	381	539	530	450
営業職員数(人)	10,450	10,111	9,276	8,948	8,808	8,703	9,111	8,963	8,116	7,619	8,226
総資産	69,693	70,816	72,663	68,340	65,280	64,095	62,765	65,919	65,525	61,855	57,711

*1 個人保険 + 個人年金保険 *2 新契約高には、転換による純増加を含む

・主要業績の推移: 太陽生命

主要業績の推移: T&Dフィナンシャル生命



(億円)

(各年3月期)	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
保有契約高 ^{*1}	36,201	33,142	31,357	29,130	26,654	25,233	22,610	21,200
うち変額個人年金	13	641	1,751	2,457	4,595	6,215	5,968	6,749
新契約高 ^{*1}	1,743	4,675	4,440	2,997	1,627	1,795	933	2,162
うち変額個人年金	12	651	904	608	1,286	1,795	933	2,162
保険料等収入	352	1,274	1,561	1,260	2,081	2,407	1,340	2,457
うち変額個人年金	12	663	1,008	772	1,642	2,024	1,037	2,182
解約失効高 ^{*1}	7,229	6,062	5,187	4,251	4,186	2,427	1,655	1,353
解約失効率(%)	17.05%	16.75%	15.65%	13.56%	14.37%	9.11%	6.56%	5.98%
基礎利益	27	▲ 32	▲ 31	▲ 67	▲ 70	▲ 64	▲ 181	▲ 408
総資産	5,986	6,136	6,822	7,272	9,341	10,784	10,489	11,711

^{*1}個人保険、個人年金保険の合計

^{*2} T&Dフィナンシャル生命は、更生特例法に基づき2001年4月1日から2001年9月30日までを事業年度としているため、2002年3月期は、組織変更後の2001年10月1日から2002年3月31日までを事業年度として決算手続きを行っています。

・主要業績の推移: T & Dフィナンシャル生命

参考資料(EEV)

・参考資料(EEV)

グループEEV計算結果詳細

(億円)

	2009年3月末	2008年3月末	増減
EEV	8,665	16,216	▲ 7,551
修正純資産	5,353	10,571	▲ 5,218
純資産の部計 *1	4,100	4,562	▲ 462
有価証券の含み損益(税引後)	▲ 343	2,895	▲ 3,239
貸付金の含み損益(税引後)	172	490	▲ 318
不動産の含み損益(税引後) *2	7	215	▲ 208
一般貸倒引当金(税引後)	10	11	▲ 1
負債中の内部留保(税引後) *3	1,406	2,401	▲ 994
劣後債務の含み損益(税引後)	-	▲ 5	5
既契約の将来価値	3,311	5,644	▲ 2,333
確実性等価将来利益現価	5,127	7,682	▲ 2,555
オプションと保証の時間価値	▲ 1,240	▲ 1,290	50
必要資本維持のための費用	▲ 321	▲ 330	9
非フィナンシャル・リスクに係る費用	▲ 253	▲ 415	162
うち新契約価値 *4	285	620	▲ 334
修正純資産	▲ 621	▲ 541	▲ 79
将来価値	906	1,162	▲ 255
確実性等価将来利益現価	1,002	1,261	▲ 259
オプションと保証の時間価値	▲ 40	▲ 32	▲ 7
必要資本維持のための費用	▲ 8	▲ 1	▲ 6
非フィナンシャル・リスクに係る費用	▲ 47	▲ 64	17
保険料現価 *5	10,914	11,374	▲ 460
新契約価値/保険料現価	2.6%	5.5%	▲ 2.8P

*1 除く評価・換算差額等合計 *2 2008年3月末は土地の含み損益、2009年3月末より土地の含み損益に建物の含み損益を加え、不動産の含み損益
*3 価格変動準備金、危険準備金、配当準備金中の未割当額 *4 将来獲得する新契約の価値を含みません、転換契約は、転換による価値の純増加分のみを算入
*5 対象契約の年度中の保険料収入と将来の保険料収入の現在価値の合計

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

グループEEV計算結果詳細

生保3社EEV計算結果詳細

(億円)

	大同生命			太陽生命			T&Dフィナンシャル生命		
	2009年 3月末	2008年 3月末	増減	2009年 3月末	2008年 3月末	増減	2009年 3月末	2008年 3月末	増減
EEV	6,074	9,907	3,832	2,958	5,749	2,791	657	560	97
修正純資産	3,043	5,329	2,285	2,700	4,847	2,147	635	395	239
純資産の部計 ^{*1}	2,715	2,618	97	1,926	1,663	263	482	281	201
有価証券の含み損益(税引後)	▲ 520	1,166	1,686	156	1,719	1,563	20	10	10
貸付金の含み損益(税引後)	60	209	148	105	274	168	5	5	▲ 0
不動産の含み損益(税引後) ^{*2}	132	225	92	124	▲ 9	115	-	-	-
一般貸倒引当金(税引後)	0	1	0	9	10	1	0	0	▲ 0
負債中の内部留保(税引後) ^{*3}	654	1,108	454	626	1,194	567	125	98	27
劣後債務の含み損益(税引後)	-	-	-	-	▲ 5	5	-	-	-
既契約の将来価値	3,031	4,577	1,546	258	902	644	22	164	▲ 142
確実性等価将来利益現価	4,177	5,992	1,814	854	1,441	586	94	248	▲ 153
オプションと保証の時間価値	▲ 805	971	165	378	▲ 246	132	56	73	16
必要資本維持のための費用	▲ 177	153	24	131	▲ 167	36	12	9	▲ 2
非フィナンシャル・リスクに係る費用	▲ 163	289	126	86	▲ 124	38	3	1	▲ 2
うち新契約価値 ^{*4}	189	462	272	205	182	22	109	24	▲ 84
修正純資産	▲ 285	313	28	215	▲ 166	49	119	61	▲ 58
将来価値	475	776	300	421	349	71	10	36	▲ 26
確実性等価将来利益現価	510	834	324	448	375	72	42	51	▲ 8
オプションと保証の時間価値	▲ 8	14	5	4	▲ 6	1	27	12	▲ 15
必要資本維持のための費用	▲ 4	1	5	1	▲ 1	0	2	1	▲ 1
非フィナンシャル・リスクに係る費用	▲ 22	45	23	21	▲ 18	3	2	0	▲ 1

*1 除(評価)換算差額等合計 *2 2008年3月末は土地の含み損益、2009年3月末より土地の含み損益に建物の含み損益を加え、不動産の含み損益

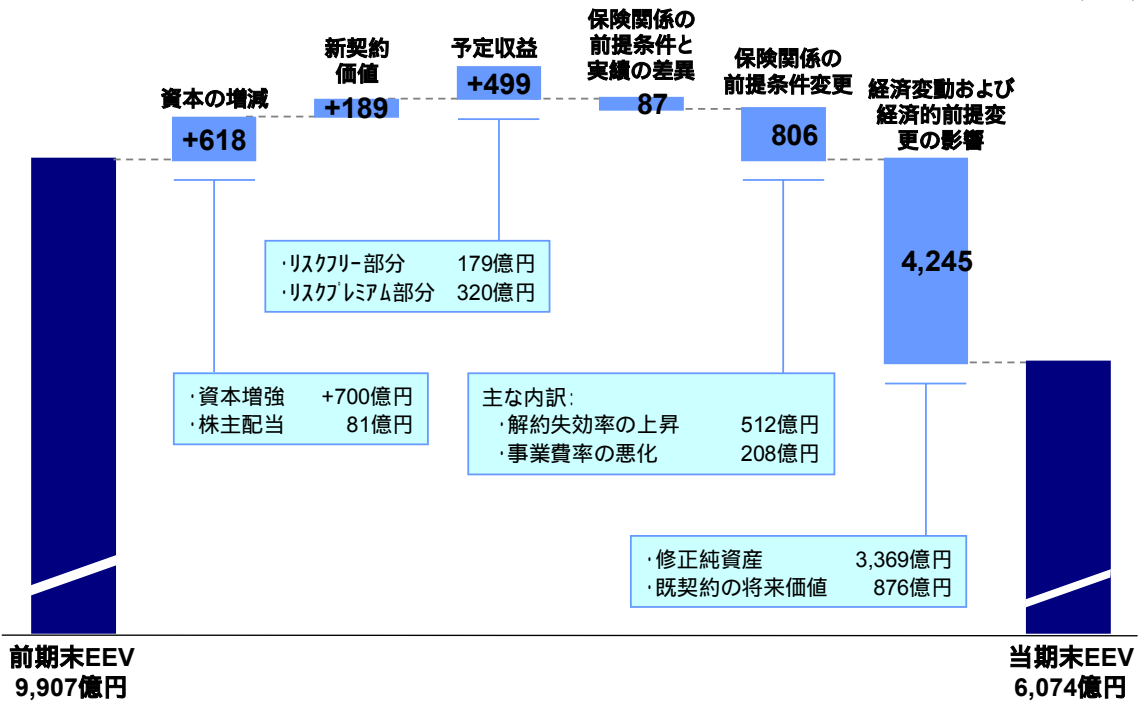
*3 価格変動準備金、危険準備金、配当準備金中の未割当額 *4 将来獲得する新契約の価値を含みません、転換契約は、転換による価値の純増加分のみを算入

株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

・生保3社EEV計算結果詳細

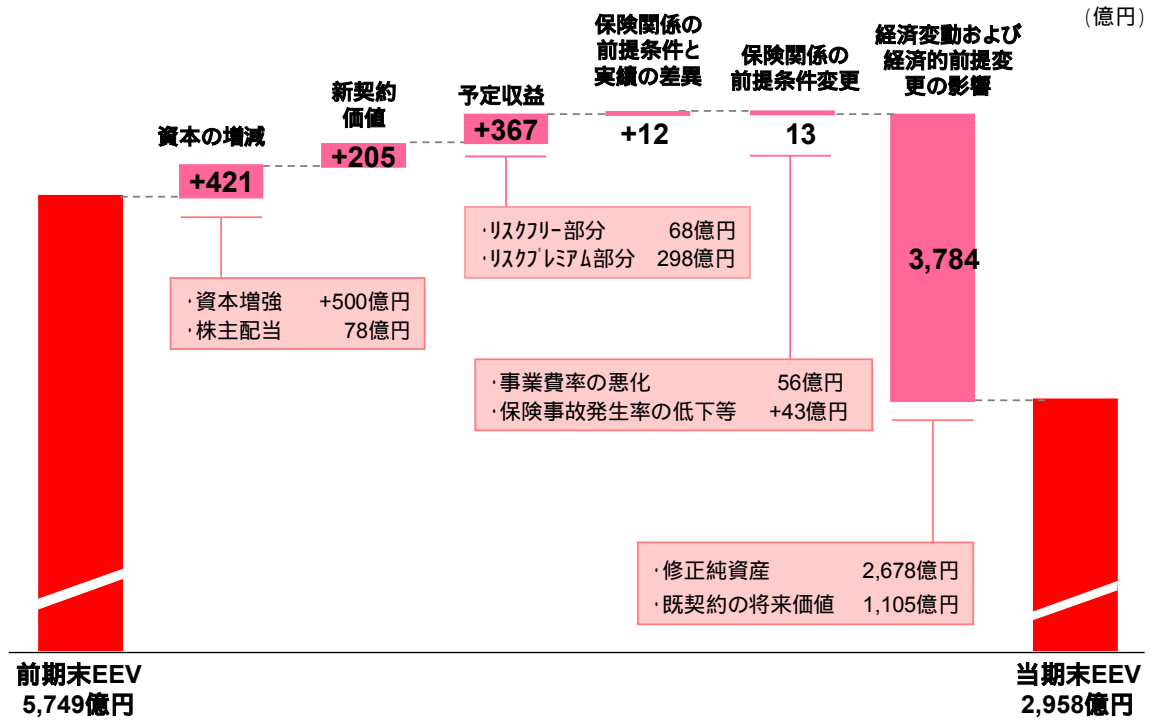
変動要因(大同生命)

(億円)



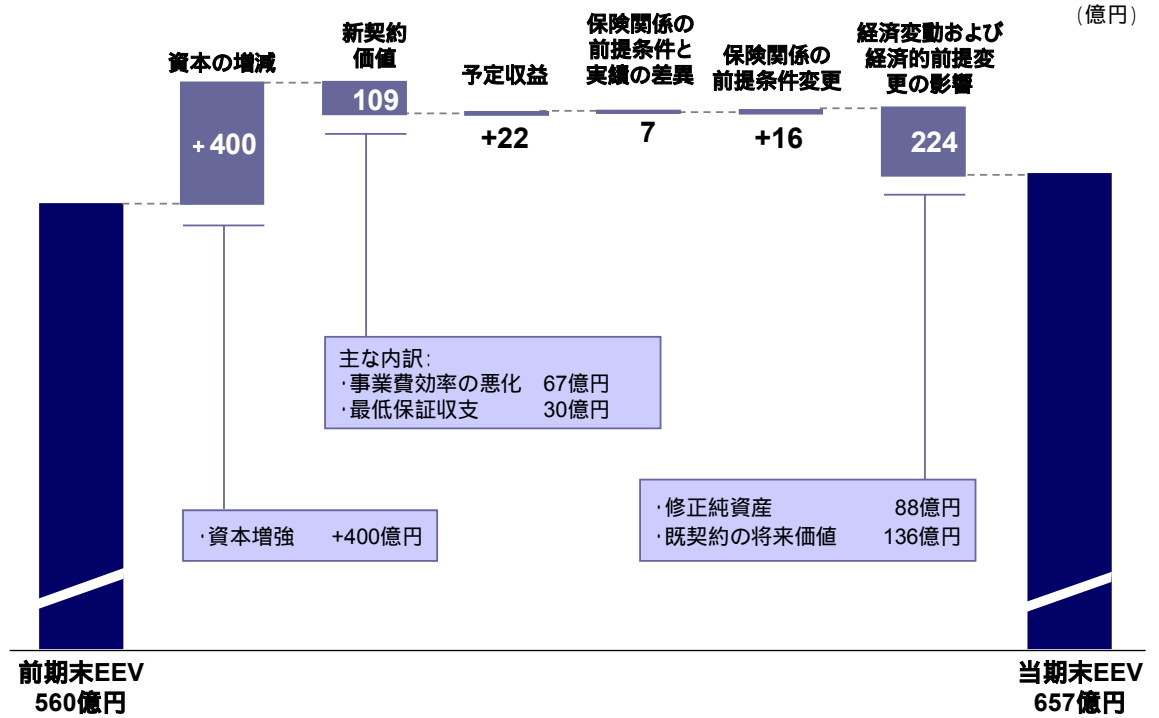
・変動要因(大同生命)

変動要因(太陽生命)



・変動要因(太陽生命)

変動要因 (T&Dフィナンシャル生命)



・変動要因 (T & Dフィナンシャル生命)

生保3社センシティブリティ



(億円)

			大同生命		太陽生命		T&Dフィナンシャル生命	
			EEV	うち新契約価値 ^{*2}	EEV	うち新契約価値 ^{*2}	EEV	うち新契約価値 ^{*2}
2009年3月末EEV			6,074	189	2,958	205	657	109
経済的要因	リスク・フリー・レート ^{*1} (うち修正純資産の変動額)	+0.5%	1,173 (▲ 326)	83	403 (▲ 1,061)	26	108 (▲ 71)	9
		-0.5%	▲ 1,551 (315)	▲ 99	547 (1,135)	31	137 (72)	11
	株式・不動産価値 (うち修正純資産の変動額)	-10%	▲ 501 (▲ 501)	-	294 (▲ 294)	-	24 (42)	7
その他の要因	解約失効率	x 0.9	321	34	77	26	6	0
	事業費率(契約維持に関する事業費)	x 0.9	175	12	202	12	14	2
	生命保険における保険事故発生率	x 0.95	522	33	162	17	16	-
	年金保険における死亡率	x 0.95	▲ 27	▲ 0	1	0	4	0
必要資本を法定最低水準に変更			177	4	131	1	10	2
必要資本をソルベンシー・マージン比率1,000%水準に変更			▲ 201	▲ 8	146	4	14	2
株式ボラティリティが25%上昇			▲ 251	▲ 1	25	0	6	2
金利ボラティリティが25%上昇			▲ 143	▲ 1	119	1	10	1

^{*1} 債券・貸付金等金利の変動により時価が変動する資産を再評価するとともに、運用利回りおよび割引率を変動させて既契約の将来価値を再計算させる。契約者行動は、これらの状況に対応して調整。^{*2} リスク・フリー・レート-0.5%が負になる場合は、それを0%として計算

^{*2} 新契約価値の感応度は、将来価値への影響を表しており、新契約獲得による修正純資産への影響は当年度の実績値であるため影響しない。
株式会社T&Dホールディングス 2009年3月期決算のご説明

・生保3社センシティブリティ

変動要因分析時に使用する 各資産の期待収益率

短資	0.915% : 1年スワップレート
国内債券・一般貸付	年限別・格付別の信用スプレッド + 1年スワップレート
国内株式・外国株式	5.915% : 1年スワップレート + リスク・プレミアム (5.0%)
外国債券	0.915% : 1年スワップレートを使用
プライベート・エクイティ	8.915% : 国内株式期待収益率 + リスク・プレミアム (3.0%)
ヘッジファンド	4.415% : 1年スワップレート + リスク・プレミアム (3.5%)
不動産	3.915% : 1年スワップレート + リスク・プレミアム (3.0%)
契約者貸付	0.535% : 1年国債利回り

・変動要因分析時に使用する各資産の期待収益率

本資料への問い合わせ先

**T&Dホールディングス
経営企画部 IRグループ
電話:03 (3434) 9142**

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、計画や予想と異なる可能性があることにご留意ください。

・お問い合わせ先